

問寒別地区・地域づくりビジョン（案）

[本 編]



令和5年3月

目 次

I. 問寒別地区・地域づくりビジョンの位置づけ	1
1. 問寒別地区・地域づくりビジョンとは	1
(1) 目的	1
(2) 役割	1
(3) 対象地域	1
2. 問寒別地区・地域づくりビジョンの上位計画の位置づけ	2
II. 問寒別地区・地域づくりビジョン策定の過程の概要	3
1. 策定までの歩み	3
(1) 令和3年度以前	3
(2) 令和4年度の概要	3
III. 問寒別地区的現状	6
1. 社会状況の変化	6
(1) 近年の社会状況の変化	6
(2) ライフスタイルや価値観の転換	7
(3) 新たな人の動きの顕在化	9
2. 問寒別地区的現状	10
(1) 困っているところ	10
(2) 良いところ	12
IV. 問寒別地区的課題の整理	14
1. 幸せに住み続けられること	14
(1) 支え合い・助け合いによる住み続け	14
(2) 高齢者の問寒別地区での住み続け	14
(3) やりがいや生きがいを感じられる地域	14
2. 若者の移住定住の促進と住宅供給	14
(1) みんなの受け入れ力の持続・向上	14
(2) 若者従業者のための住宅供給	14
(3) 空き家の利活用	14
3. 持続的な産業	15
(1) 産業の担い手(酪農業、建設業、交通など)の確保	15
(2) 問寒別地区的資源を活用した「チビジネス」の促進	15
4. 新たな地域運営	15
(1) 町内会の維持	15
(2) 子育て、趣味、生涯学習などの地域活動の維持	15
(3) 公共施設・公共サービスの維持	15
(4) プチ雇用の活用とのマッチング	15
(5) 関係人口を巻き込んだコミュニティ形成(研究機関、鉄道愛好家など)	15

5. みんなの居場所(複合拠点)づくり	16
(1) 拠点づくり(地域運営、コミュニティ(人のつながり)、買物、仕事、起業など)	16
(2) 空き家・空き店舗の活用の検討	16
(3) やりがいや活躍の場	16
6. 生活利便性の維持	16
(1) 食料・日用品商店の維持、買物支援	16
(2) 飲食店・配食サービスの維持	16
(3) 徒歩生活者の「移動の足」の確保	16
7. 課題のまとめ	17
 V. 問寒別地区の未来の将来像	18
1. 将来像の検討方法	18
2. 将来像	21
 VI. 基本計画	22
1. 基本計画(重点プロジェクト)の考え方	22
2. 基本計画(重点プロジェクト)の内容	22
(1) I. ごちゃまぜプロジェクト	22
(2) II. 多様な住まいと住み続けプロジェクト	23
(3) III. 子どもは地域で育むプロジェクト	24
(4) IV. 自分ごと地域運営プロジェクト	25
(5) V. ずっと続く産業プロジェクト	27
(6) VI. 小さな多機能複合拠点プロジェクト	28
(7) VII. “当たり前”に新たな価値を吹き込むプロジェクト	29
 VII. 基本計画の推進方策	30
1. 推進上の課題	30
(1) 問寒別地区・地域づくりビジョンを計画で終わらせない	30
(2) 住民が推進に主体的に関わる	30
(3) 長期間でのモチベーションの維持	30
2. 具体的な推進方策	31
(1) 推進体制	31
(2) 具体的な推進方策	31
3. 将来的な住民による地域運営のイメージ	32
 VIII. 問寒別地区・地域づくりビジョン策定の過程の詳細内容	33
1. 統計資料からの現状把握	33
(1) 幌延町全体の現状	33
(2) 問寒別地区の現状	36
(3) 人口ビジョンによる問寒別地区の人口目標	43
2. 住民アンケート「日常の移動と暮らしに関するアンケート調査」	49
(1) アンケート調査の概要	49
(2) アンケート結果	50
(3) 住民アンケートで明らかとなった現状・課題	59

3. 住民懇談会「といかん本音トーク」.....	60
(1) 流れ.....	60
(2) 検討内容.....	62
(3) 問寒別地区の将来像の検討.....	69
(4) 基本計画(重点プロジェクト)の優先順位の検討(北総研で実施).....	72
(5) 住民懇談会の意義.....	76
4. 幌延町地域づくりビジョン審議会での検討.....	77
(1) 設置概要.....	77
(2) 審議会での意見.....	77
5. 問寒別小中学校子どもワークショップ.....	81
(1) 概要.....	81
6. 視察研修.....	84
(1) 概要.....	84
IX. 終わりに「未来につなぐ子どもたちの想い」.....	88

I. 問寒別地区・地域づくりビジョンの位置づけ

1. 問寒別地区・地域づくりビジョンとは

(1)目的

問寒別地区は、明治の入植以来、軟弱な土壌や気候災害にもめげず、住民の団結力で、それぞれの時代で農業、鉱業、林業など独自の伝統文化とともに地域を切り拓き、築き上げてきましたが、近年は若年層を中心に人口が流出するなど、少子高齢化、小家族化が進み、地域や集落の活力や担い手が不足してきています。

そこで、地域全体で協力して地域を守り育て、いつまでも暮らし続けられる持続的な地域集落づくりを進めるため、自分たちが地域に対して願うことを自らで考え、問寒別地区のあるべき姿を「問寒別地区・地域づくりビジョン」として策定します。

(2)役割

問寒別地区・地域づくりビジョンは、問寒別地区の将来像を総合的に示すもので、地域づくりの方向性を共有するとともに、地域全体の歩むべき共通の指針とするものです。

(3)対象地域（図 I-1）

問寒別地区・地域づくりビジョンの対象地域は、問寒別地区で「問寒別」、「中問寒」、「上問寒」、「雄興」の4つの地区で構成されています。



図 I-1 問寒別地区の位置図

2. 問寒別地区・地域づくりビジョンの上位計画の位置づけ

問寒別地区・地域づくりビジョンは、幌延町の最上位計画である「幌延町総合計画」に掲げる基本目標や「幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における取組の着実な推進を図り、いつまでも暮らし続けられる持続的な地域集落づくりを進めるためのもので、これら上位計画に基づき策定するものです（図 I-2）。

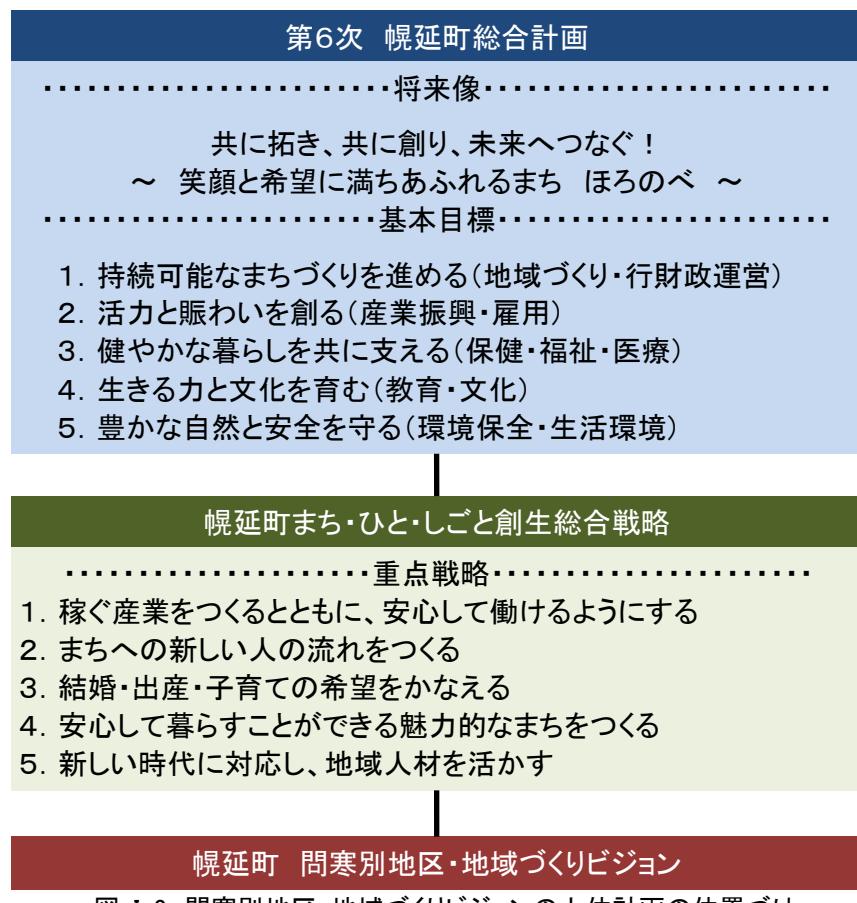


図 I-2 問寒別地区・地域づくりビジョンの上位計画の位置づけ

II. 問寒別地区・地域づくりビジョン策定の過程の概要

ここでは、策定過程の概要を記し、詳細については、VIII. 問寒別地区・地域づくりビジョン策定の過程の詳細内容に記します。

1. 策定までの歩み（図II-1）

（1）令和3年度以前

令和4年度に実施した「地域コミュニティ形成事業」の以前にも、地域おこし協力隊や集落支援員の導入、地域団体活動連携等による現状把握、視察研修、地域事業者聞き取り調査、かわら版発行、地域交通や日常生活応援実験、地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所（以下、北総研）の協力などによる、問寒別地区の現状と課題の把握に向けた問寒別地区居住者を対象にした聞き取り調査などが実施されました。また、令和3年度には、地域住民が気軽に集まる住民懇談会「といかん本音トーク」を3回開催しました。

（2）令和4年度の概要

令和4年度「地域コミュニティ形成事業」として、以下の取組が行われました。それぞれの詳細は後述します。

1) 統計資料からの現状把握

- ・国勢調査や住民基本台帳データ等の分析により、問寒別地区の人の動きとして、転出入者の属性や場所、高齢化状況などを把握しました。

2) 住民アンケート調査

- ・問寒別地区の居住者等を対象に、移動方法や現行の公共交通サービスの利用実態などを把握するため「日常の移動と暮らしに関するアンケート調査」を実施し、住民の移動や日常生活の現状や課題を把握しました。

3) 住民懇談会「といかん本音トーク」

- ・問寒別地区の住民が集い、日々、暮らしの中で感じていること、将来のことなどを、ざくばらんに気軽に話し合う懇談会を令和4年度に9回（令和5年3月27日現在）開催しました。この会での話し合いの中から、問寒別地区・地域づくりビジョンの重要な考え方だけではなく、何かを実践したいとの思いで「といかん・みんなの市」の実験的な開催や「といかん共同果樹園」に向けた場所決め、畠おこしなど行い、自分ごとの地域づくりを実感しながら取組を進めました。

4)集落機能維持対策プロジェクトチーム（職員 PT）

- ・幌延町役場の若手職員で「集落機能維持対策プロジェクトチーム（以下、職員 PT）」を立ち上げました。職員 PT では、人口減少が進む中で地域活動を維持・活性化するため、地域活動の負担軽減と地域での新たな雇用創出を目指して、地縁型組織（町内会など）、目的型組織（消防団、自主防災組織、営農、サークルなど）、属性型組織（PTA、老人クラブなど）等の機能をまとめて総力を結集した小規模多機能自治の視点で、これまで行政が担ってきた住民サービス等のうち外部に委託等できるもの、又は行政以外で実施した方が地域のためになるものを抽出し、その効果や現実性などを検討しました。

5)視察・研修

[NPO法人上美生]

- ・A コープ撤退跡の食料品店の経営や交通空白地有償運送など地域課題を住民による地域運営で解決する取組を展開している芽室町上美生地区の「NPO法人上美生」を視察し意見交換を行いました。立ち上げの動機から、実現できた要因、今後の課題、地域のビジョンを共有することの大切さなどを把握できました。

[札幌市 市民活動スタッフ養成講座受講]

- ・I I H O E（人と組織と地球のための国際研究所）代表者の川北秀人氏による「非営利組織のガバナンス拡充を進めるために」、「北海道内の地域の持続可能性を高めるために」を受講し、自治会のこれから役割は命を守ることと福祉で、従来のイベント中心のやり方は困難であることや「協働」から「総働」への転換が重要であることなど、地域にとって小規模多機能自治の考え方が必要であることなどを学びました。

6)子どもワークショップ

- ・問寒別地区・地域づくりビジョンの策定において、夢や希望にあふれた問寒別小中学校の児童生徒の意見をまとめるワークショップ「いろんな『好き』を発見しよう！」を実施しました。問寒別地区の小中学生ならではの地域の好きなところを再発見できました。

以前 2021年度 令和3年度	地域おこし協力隊・集落支援員の導入	地域事業者聞き取り調査
	地域づくりセミナー＋住民ワークショップ(北総研)	地域交通や日常生活応援実験
	問寒別居住者聞き取り調査(北総研)	地域団体活動連携等による現状把握
	住民懇談会「本音トーク」①②③	視察研修
		かわら版発行

令和4年度 (2022年度)	4月	統計データ分析	4月
	5月	住民アンケート調査	職員PT①
	6月		
	7月	審議会①	職員PT②
	8月	住民懇談会「本音トーク」①②	職員PT③
	9月	住民懇談会「本音トーク」③	かわら版の発行①
	10月	住民懇談会「本音トーク」④	職員PT④
	11月	住民懇談会「本音トーク」⑤ といかん市	審議会② 子どもワークショップ かわら版の発行②
	12月	住民懇談会「本音トーク」⑥	職員PT⑤
	1月	住民懇談会「本音トーク」⑦	かわら版の発行③
	2月	住民懇談会「本音トーク」⑧	審議会③
	3月	住民懇談会「本音トーク」⑨	職員PT⑥
		審議会④	職員PT⑦
			3月

図 II-1 策定までの歩みの流れ(令和5年3月28日現在)

III. 問寒別地区の現状

1. 社会状況の変化

(1) 近年の社会状況の変化

1) 経済の変化

日本は戦後の高度経済成長期からバブル経済崩壊、長引く経済低迷期を迎え、可処分所得の減少などを背景に、お金よりも心の豊かさを大事にする風潮が出始めています。

2) 頻発する大規模自然災害

近年、東日本大震災や北海道胆振東部地震、気候変動を背景にした大洪水、がけ崩れなどが頻発しています。大規模停電による大都市の脆弱性や災害時の相互扶助機能を有する地域コミュニティの重要性が再認識されています。

3) 新型コロナウィルス感染症の大流行

2019年（令和元年）12月に中国で発生した新型コロナウィルス感染症は、世界中に大流行し、日本での死者は73,610人（2023年3月21日現在）になりました。この間、外出制限や様々な行事の自粛など、生活や社会に大きな影響を与えました。また、都市部の職場にいなくても仕事ができることが認識され、リモートワークの出現など、新たな働き方が広まりました。

4) 技術革新

現在、情報通信やAI技術など様々な分野で技術革新が起こっています。それらにより、遠隔地医療やテレワークなどが現実化しています。また、50年に一度の交通革命により、自動運転、空飛ぶ自動車、ドローンによる宅配など距離の概念が大きく変わろうとしています。

(2) ライフスタイルや価値観の転換

近年の社会状況の変化により、ライフスタイルや田舎の評価など価値観が大きく変化しています。

1) 田舎の良さの再認識

① 自然と安全安心（図III-1）

・平成30年度の内閣府の社会意識に関する世論調査では、日本の誇りは「美しい自然」が最も多く、次いで「治安のよさ」でした。これらの項目は、田舎の方が都会より明らかに有しているものです。ただし、その価値を田舎の人々があまり意識していないことが想定されます。

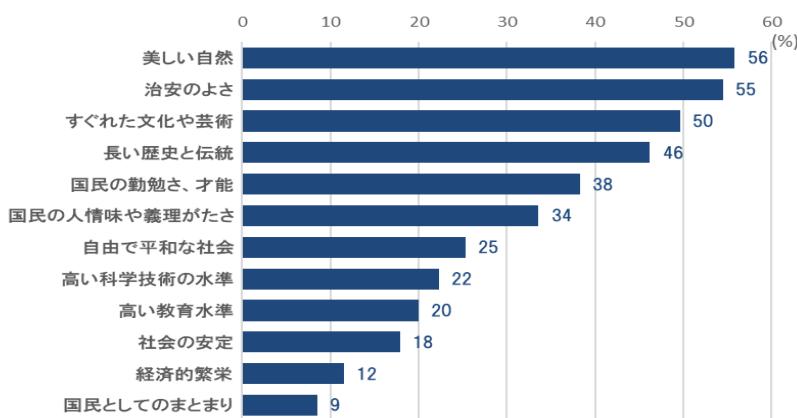


図 III-1 内閣府世論調査 平成30年度「社会意識に関する世論調査」

② コミュニティ力

・大規模災害時に大きな力を発揮するのが、地域コミュニティによる相互扶助機能です。この地域コミュニティがいまだに残っているのが田舎の良さの一つといえます。

2) 多様性の時代

個人や社会がライフスタイルや働き方、ジェンダーレスなどの多様性を尊重し、大事にするように変化しています。「田舎暮らし」もその一つで、経済効率や利便性だけで評価しない時代が到来しています。

3)新たな働き方

通信技術の進歩と、価値観の変化、多様性の尊重などにより、新たな働き方が注目されています。地価の高い都会に暮らさなくても、仕事ができるようになり、自然が豊かで安全安心な田舎に移住する動きが顕在化しています。

4)田舎の欠点の変化

田舎では、買物や病院など生活利便性が低いことが欠点とされていましたが、遠隔医療や交通革命により、それらが地元になくとも困らない時代がすぐそこまで来ています。

(3)新たな人の動きの顕在化

北海道内外の転出入状況では、2019年（令和元年）まで、全道、道内の市部、郡部、いずれも道外への転出超過が続いていました。しかし、2020年（令和2年）に道内の郡部では、道外からの転入超過に転じました（図III-2）。

また、問寒別地区では、2015年（平成27年）に比べ、2020年（令和2年）は世帯数が増加しています（図III-3）。同じく、就業者数についても、2015年（平成27年）に比べ、2020年（令和2年）で増加しています。

これらは、問寒別地区の魅力が増せば、人口減少状況を変えられる可能性があることを示しています。

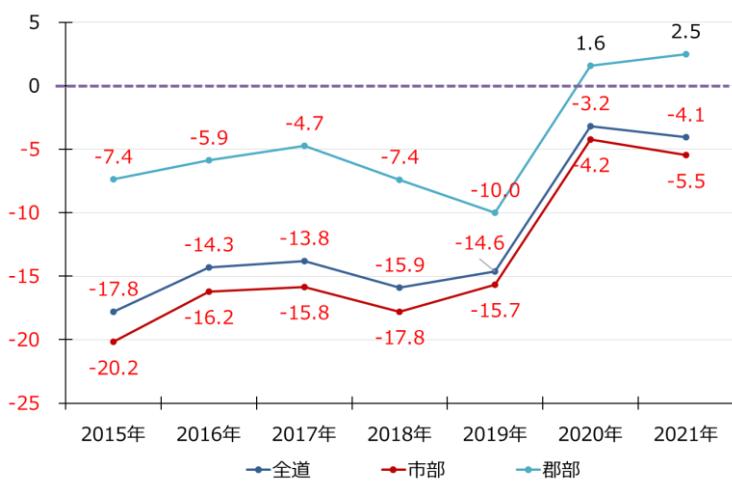


図 III-2 北海道外との転出入状況
[住民基本台帳人口移動報告(総合振興局及び振興局市区別道外転入転出者数)]

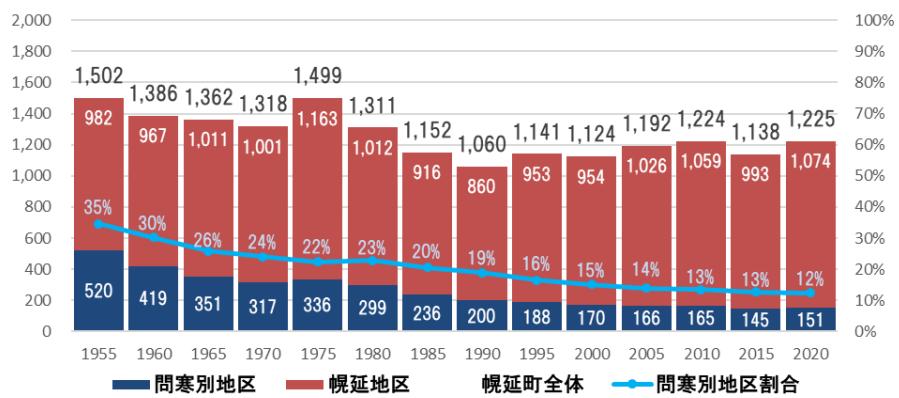


図 III-3 幌延町の地区別世帯数と問寒別地区世帯数割合の推移(国勢調査)

2. 問寒別地区の現状

統計データや住民アンケート調査、住民懇談会での意見などをもとに、問寒別地区の困っているところと良いところについて、整理します。

(1) 困っているところ

1) 人口減少・少子高齢化、小家族化、世代の偏在（図III-4）

① にぎわいが少ない

- ・コロナ禍と人口減少により、にぎわいが少なくなっています。特に、子どもが少なくなっていることがにぎわいの不安を感じさせます。

② 町内会活動や団体活動などの維持に不安

- ・人口減少、高齢化、小家族化等により、役員のなり手が不足し、一人で多くの役割を担わざるを得なくなっています。

③ 地域経営のひつ迫

- ・人口が減ることにより、一人当たりの道路の維持管理、除雪、上下水道の維持管理などのインフラの維持管理コストが上昇し、自治体経営が苦しくなっています。

④ 働き盛りの担い手が少ない

- ・問寒別地区は、55歳以上の人囗が多い一方で、45～49歳人口と10～24歳人口が極端に少ない状況で、これらの世代の偏在により、町内会活動や各種イベントの担い手が少なく、地域でのさまざまな機能の伝承が難しい状況です（図III-4）。

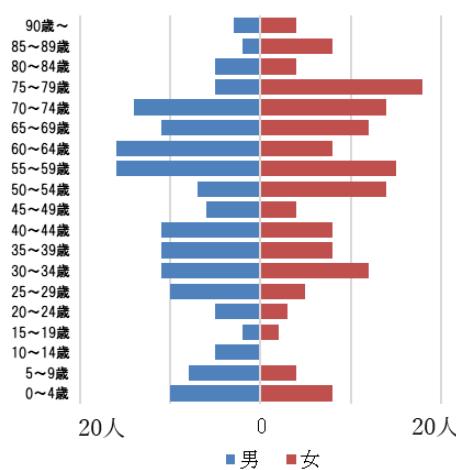


図 III-4 人口ピラミッド(住民基本台帳データ(令和2年3月31日))

2)産業

①離農

- ・問寒別地区の基幹産業である酪農業では、牛舎や設備の老朽化や後継者不足などにより離農が続いている。離農により地域経済循環の停滞、農地の維持困難、受入体制など厳しい状況です。

②建設業などの担い手不足

- ・建設業は、インフラの維持管理や除雪の他、災害時の復旧など地域の維持で重要な役割を果たします。しかし、仕事量はあるにも関わらず、従業者不足で稚内市などから通勤する人もいる状況です。

3)生活利便性（買物、移動）

①商店の維持

- ・問寒別地区では、小規模な食料日用品店が運営されているが、今後の持続的運営に不安な声が聞かれます。子どもワークショップで、子どもたちの好きなモノコトで、この小売店が上位にあげられており、高齢者だけでなく移動範囲が小さい子どもたちにとっても、この小売店は重要になっています。

②「移動の足」の確保

- ・問寒別地区では、現在、さまざまな地域公共交通が導入されていますが、いずれも利用者は少ないものの、自家用車を利用しない高齢者等にとっては、ここで暮らし続ける上で不可欠な移動手段です。

4)雇用や移住・定住と住宅

①従業者の民間賃貸住宅不足

- ・問寒別地区には民間賃貸住宅がほとんど無く、建設業などで住宅が無いため、従業者は地域外から通勤することもあります。

②農業研修生、移住者の住宅

- ・近年、酪農業の研修生や問寒別地区で起業する動きがありますが、公営住宅以外に賃貸住宅が無く、また、それらの情報も地元の口コミで得られる以外は難しく、住宅探しが困難な状況です。

③高齢者の住み続け

- ・酪農業を引退する人や戸建て住宅の高齢者で住み続けられなくなった際に、高齢者等の集合住宅は問寒別地区にないため、地域外に転出せざるを得ない状況です。

(2)良いところ

1)地域のつながり

①支え合い・助け合い

- ・問寒別地区では、人や家族同士など地域のつながりが強く、お互いに支え合い、助け合うことで、安心して住み続けられています。

②子どもは地域で育む

- ・問寒別地区では、住民全員が PTA に所属するなど、地域という家族で子どもを育んでいます。

③団結力と自立力

- ・地域が一致団結することができ、お祭りやイベントなどで大きな力を発揮します。
- ・地域での困りごとを、自ら対処できる自立力を有しています。

④受入れる懐の広さ

- ・問寒別地区の住民は、移住者など地域外からの人を暖かく親切に受入れるため、快適で安心して住むことができます。

2)多様な産業

①多様なスキルの担い手

- ・問寒別地区には小さいながら農業や建設業など多種な産業があり、その担い手は多様なスキルを有しており、地域活動で活躍しています。

②交流人口

- ・研究機関には多くの研究者が来訪し、他にはない交流人口を有しています。

3)豊かな地域資源

①大自然の風景

- ・四季を通して自然が美しく人々の心を癒してくれます。

②大自然の恵み

- ・山菜やキノコ、魚など、魅力ある大自然の恵みが得られます。
- ・スキーやスノーモビル、釣り、キャンプなど大自然ならではのレジャーを楽しめます。

③大自然が人を育む

- ・ワラベンチャー問寒クラブなどの活動で、自然の中で豊かな人を育てています。

④多様な地域資源

- ・秘境駅など愛好家には魅力ある資源がたくさんあり、人をひきつけています。

4)近年の新たな動き

①新しい働き方

- ・情報通信技術の進歩により、どこにいても仕事ができる業種があり、いろいろな魅力ある問寒別地区で起業する例があります。

②酪農業の魅力アップ

- ・酪農業に憧れ、体験を希望する研修生が増加しており、問寒別地区にもその動きが現れています。

③世帯数の増加と「外の目」

- ・問寒別地区では、2015年（平成27年）に比べ2020年（令和2年）の世帯数が増加しました。
- ・問寒別地区の外からの転入者は、地元の人が気付きにくい「といかんの良さ」を感じることができ、それが、地元の人の気付きにつながり、地域の誇りとなっていました。

IV. 問寒別地区の課題の整理

住民懇談会や審議会などの意見を踏まえ、Ⅲ章でまとめた現状から、社会状況の変化を読み、困っているところを解決し、良いところを活かす発想で、課題を整理します。

1. 幸せに住み続けられること

(1) 支え合い・助け合いによる住み続け

- ・地域全体でみんながみんなを支え合い、助け合うことで、いつまでも幸せに住み続けられる地域のコミュニティを形成する必要があります。

(2) 高齢者の問寒別地区での住み続け

- ・戸建て住宅で暮らしにくくなつた人が問寒別地域外に転出せずに住み続けられるようにする必要があります。

(3) やりがいや生きがいを感じられる地域

- ・幸せを実感するためには、誰かに貢献でき、やりがいや生きがいを持って暮らすことができる地域にする必要があります。

2. 若者の移住定住の促進と住宅供給

(1) みんなの受け入れ力の持続・向上

- ・移住定住促進のためには、問寒別地区で有している外からの人を心地よく受け入れる力を持続、向上する必要があります。

(2) 若者従業者のための住宅供給

- ・雇用の場があつても住宅が無い状況を解消するためには、公営住宅に入居できない収入層の従業者のための民間賃貸住宅などの供給が必要になります。

(3) 空き家の利活用

- ・多様な住宅ニーズに対応するため、今後も発生する空き家を中古住宅として活用する必要があります。

3. 持続的な産業

(1)産業の担い手（酪農業、建設業、交通など）の確保

- ・問寒別地区の酪農業、建設業、交通などの地域産業の担い手の確保のための仕組みづくりが必要になります。

(2)問寒別地区の資源を活用した「プチビジネス」の促進

- ・山菜などの豊かな地域資源を活かした新規ビジネスが地域を活性化させます。
- ・キャンプなど大自然を活かした新規ビジネスが必要になります。

4. 新たな地域運営

(1)町内会の維持

- ・地域を維持していくためには、役員のなり手がないなどの課題に悩む町内会活動を支える仕組みづくりが必要になります。

(2)子育て、趣味、生涯学習などの地域活動の維持

- ・子どもの健やかな成長や地域の安心などのために、問寒別地区の盛んなサークルや地域活動を維持していく必要があります。

(3)公共施設・公共サービスの維持

- ・人口が減少しても問寒別地区の生活の基盤となる公共施設や公共サービスを維持する必要があります。

(4)プチ雇用の活用とのマッチング

- ・問寒別地区内にある多様な産業での小さな雇用、短時間の雇用を活かした新しい働き方ができるようにする必要があります。

(5)関係人口を巻き込んだコミュニティ形成（研究機関、鉄道愛好家など）

- ・研究機関に来訪する研究者や秘境駅に来訪する鉄道愛好家などの関係人口を活かした地域活性化を図る必要があります。

5. みんなの居場所（複合拠点）づくり

(1)拠点づくり（地域運営、コミュニティ（人のつながり）、買物、仕事、起業など）

- ・住民が安心して暮らすためには、誰もが気軽に行けて、困りごとの相談もでき、支え合い・助け合いの拠点をつくる必要があります。

(2)空き家・空き店舗の活用の検討

- ・拠点づくりの施設としては、新規の施設整備だけでなく、地域にある空き家、空き店舗の活用を検討する必要があります。

(3)やりがいや活躍の場

- ・この拠点では、単なる居場所になるだけではなく、誰かの困りごとの相談者や支え合い・助け合いの担い手になるなど、自分の役割があり、活躍の場になる必要があります。

6. 生活利便性の維持

(1)食料・日用品商店の維持、買物支援

- ・徒歩生活者などの生活を支えるためには、食料・日用品の商店を維持するとともに、買物支援の取組が必要です。

(2)飲食店・配食サービスの維持

- ・高齢者や子育て世代に加え、酪農家の繁忙期には配食サービスが求められており、飲食店の維持と配食サービスの提供が必要です。

(3)徒歩生活者の「移動の足」の確保

- ・利用者が少ないことを前提とした、きめの細かいサービスと経営に配慮した地域公共交通システムの提供が必要です。

7. 課題のまとめ

1. 幸せに住み続けられること
(1)支え合い・助け合いによる住み続け
(2)高齢者の間寒別地区での住み続け
(3)やりがいや生きがいを感じられる地域
2. 若者の移住定住の促進と住宅供給
(1)みんなの受入れ力の持続・向上
(2)若者従業者のための住宅供給
(3)空き家の利活用
3. 持続的な産業
(1)産業の担い手(酪農業、建設業、交通など)の確保
(2)間寒別地区の資源を活用した「プチビジネス」の促進
4. 新たな地域運営
(1)町内会の維持
(2)子育て、趣味、生涯学習などの地域活動の維持
(3)公共施設・公共サービスの維持
(4)プチ雇用の活用とのマッチング
(5)関係人口を巻き込んだコミュニティ形成(研究機関、鉄道愛好家など)
5. みんなの居場所(複合拠点)づくり
(1)拠点づくり(地域運営、コミュニティ(人のつながり)、買物、仕事、起業など)
(2)空き家・空き店舗の活用の検討
(3)やりがいや活躍の場
6. 生活利便性の維持
(1)食料・日用品商店の維持、買物支援
(2)飲食店・配食サービスの維持
(3)徒歩生活者の「移動の足」の確保

V. 問寒別地区の未来の将来像

1. 将来像の検討方法

将来像について、次の流れで検討しました。

- A.住民懇談会において問寒別地区の将来像のキーワードを出し合いました（表V-1）。
- B.そのキーワードから事務局が将来像のフレーズを作成しました（表V-2）。
- C.住民や問寒別地区への通勤者などを対象にしたアンケート調査を実施し、Bの中から「いいね」を選んでもらいました（表V-3）。
- D.住民懇談会メンバーから将来像の追加提案を受けました（表V-4）。
- E.住民懇談会（R5.2.14）でアンケート調査結果と追加提案について検討しました（表V-5）。
- F.A~Eにより事務局で3案に絞り、審議会に諮りました（表V-6）。

問寒別地区の住み心地の良さを表現	問寒別地区ならではのことや考え方を表現	問寒別地区の未来に向けた気持ちを表現
<ul style="list-style-type: none"> ・人がいい ・人柄がいい ・住み心地がいい ・どうぞご自由に感 でも冷たくない ・ほっとけない ・本音で話せる ・協調性 ・小さいから距離が近い ・小さいから助け合える ・小さいから お互いの事を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱みを強みに ・楽しければなんでもできる ・といかんの人たちだからこそ ・オンリーワンを ・誰か任せにしない ・結束力 ・小さいからお互いの事を知る ・出会い 学び(の場) ・牛が好き ・研究林 ミズナラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる ・つなげる ・つくる ・あしたへ ・未来へ ・いいこと見つけよう ・それでも明日は来る

表 V-1 将来像のキーワード

- ① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
- ②といかんならではの価値を未来のこどもにつなぐ
- ③ずっと つたわる ひと(人)・の(農)・営み そっと つながる ひとの温もり もっと つなげる わたしの「といかん」
- ④ひとも地域も未来にも ま～るく はずむ あったか ごちゃまぜ「といかん」
- ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
- ⑥つながる 営み・ひとのわ はぐくみ あしたへ「といかんべつ」
- ⑦みんなが知り合い だから ほっとけない ほっとかない(ホッといかん)
- ⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ
- ⑨オンリーワンなら といかん
- ⑩ひと(人)・の(農)・営み はぐくみ つなげる 明日の「といかん」
- ⑪つながる想い、はぐくみ つなげる 未来の「といかん」
- ⑫わたしのまち だから ほっとかん ほっといかん わたしたち だから あたたか ほっといかん

表 V-2 事務局等による将来像のフレーズ

① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現	20
③ずっとつたわるひと(人)・の(農)・営み そつとつながる ひとの温もり もつとつなげるわたしの「といかん」	15
⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ	13
⑦みんなが知り合い だから ほつとけない ほつとかない(ホツといかん)	12
⑪つながる想い、はぐくみ つなげる 未来の「といかん」	11
⑥つながる 営み・ひとのわ はぐくみ あしたへ「といかんべつ」	10
②といかんならではの価値を未来のこどもにつなぐ	8
⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ	8
⑩ひと(人)・の(農)・営み はぐくみ つなげる 明日の「といかん」	7
④ひとも地域も未来にも ま～るくはずむ あつたか ごちやまぜ「といかん」	6
⑨オンリーワンなら といかん	3
⑫わたしのまち だから ほつとけない ほつといかん わたしたち だから あたたか ほつといかん	3

表 V-3 アンケート調査結果

追①みんなの笑顔、みんなの安心、みんなでつくる問寒別！
 追②老いも若きもみんなが頼り！一緒に考えよう問寒別の明日！
 追③めざすは人と暮らしのテーマパーク
 追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別
 追⑤楽しもう！関わろう！暮らそう！
 追⑥「できない！」と言うの前に「何ができる？」か考える
 (Think what I can do before I say I can't.)
 追⑦みんなは問寒別のために！問寒別はみんなのために！

表 V-4 住民懇談会メンバーから将来像の追加提案

[いいなあと思うフレーズ]

- ①“楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
 - ・アンケートの結果を尊重して、これをメインにするべき
 - ・アンケートの結果を用いて決めるのが、より問寒別全体を反映しているのでは
 - ・代表になって本音トークに参加しているのではないので、アンケートの結果を尊重してそれに立って進めるべき
 - ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
 - ・まさに問寒別の良いところをまとめている感じ
 - ・人がよい、自然がよいなどはどの住民も賛同できる
 - ⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ
 - ・いろんな価値観を認めつつ、それぞれの価値観を尊重できるという点でこれがよい
 - ⑨オンリーワンなら といかん
 - ・オンリーワンに誇りを持つ
- 追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別
- ・田舎だからあるものしかないところに共感。そこに暮らしをいれたらいいのでは。田舎だからこそ暮らしを楽しむ。つながりを大事にする。というところを大事にしていきたい
 - ・工夫と協働が問寒別の人々の暮らしを表して感じがする
- [その他]
- ・つながる、はぐくむなどの表現を入れたい
 - ・つなげる、つながる、育む、ともにやっていく。がよい
 - ・将来像なので、わざわざ「といかん」、「未来」などは入れなくてもいいのでは
 - ・「テーマパーク」など明るい部分があり、解釈に幅があるものがいいのでは
 - ・軽くでも参加できるような参加しやすいようなスローガンがよい
 - ・子どもたちに伝えていけるようなスローガンだったらよい
 - ・問寒別というと市街のイメージなので「といかん」が全地域合わせてしっくりくる
 - ・多様性やこれから可能性にかけて、「空欄」にして、自分ならどのような言葉を入れたいかを自分で決めていく
 - ・案から選んで反対なこともなければ、これがピッタリというのを見つけ出すのは難しい
 - ・本音トークで作ったもので違和感のあるものは実践していく中で都度変化していくべき

表 V-5 住民懇談会での意見

- (1)アンケート調査結果を重視して、その第1位の案を選択
 - ① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
 - (2)アンケート調査結果が第3位で、住民懇談会で2人が賛意を示した案を選択
 - ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
 - (3)住民自らの言葉で作成した追加提案から、住民懇談会で2人が賛意を示した案を選択し、さらに、「問寒別」は問寒別市街地のイメージが強いので全体をイメージできる「といかん」に修正
- 追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別
- 追④修正 田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働のといかん

以上から審議会に提案する将来像案は以下の3案

1. “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
2. ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
3. 田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働のといかん

表 V-6 審議会に諮る3案の抽出理由と結果

2. 将来像

住民投票や審議会での検討の結果、選ばれたのが次のフレーズです。

「*****」

VI. 基本計画

1. 基本計画（重点プロジェクト）の考え方

基本計画（重点プロジェクト）は、本ビジョンの策定の時点で課題を解決するためのプロジェクトを想定して作成するものです。このプロジェクトは、すぐに全て取り組めるものではありませんが、今後の課題解決のために考えられることをまとめます。

今後、プロジェクトについては隨時、状況に応じて見直すものとします。

2. 基本計画（重点プロジェクト）の内容

(1) I. ごちゃまぜプロジェクト

～ひとも地域も未来にも ま～るく はずむ あつたか ごちゃまぜ 「といかん」～
（“楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現(選抜 3 案のうち、本案が将来像に選ばれなかった場合)）

【考え方】

- ・問寒別地区で幸せに住み続けられるように、いろいろな人が交わり、ある時は支え合い、ある時は誰かを支え、ある時は助けられるような、みんなの居場所であり、自分の役割がある場をつくります。

【具体的な取組例（目標）】

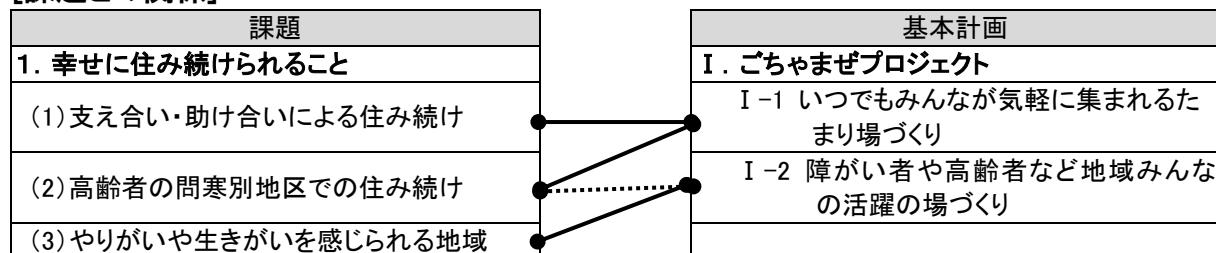
I -1 いつでもみんなが気軽に集まれるたまり場づくり

- ・特に用事が無くてもそこに行くと知り合いがいて、お茶を飲んだり、話ができるたりする、地域のみんなが気軽に立ち寄れる場をつくります。

I -2 障がい者や高齢者など地域みんなの活躍の場づくり

- ・お茶を入れる、作ったお菓子を売る、漬物を持ち寄る、徒歩の高齢者を車に一緒に乗せて帰るなど、ここには小さな役割がたくさんある場をつくります。

【課題との関係】



(2) II. 多様な住まいと住み続けプロジェクト

～住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ～（ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ（選抜 3 案のうち、本案が将来像に選ばれなかった場合））

【考え方】

- ・新しい働き方やライフスタイル、住まい方の多様化に対応した住宅供給を図ることで移住定住の受け皿にします。
- ・除雪負担の増大など戸建て住宅に住めなくなった高齢者が快適・安心に住める集合住宅を供給することで、高齢者の問寒別地区外への流出を防止し、問寒別地区に住み続けられるようにします。

【具体的な取組例（目標）】

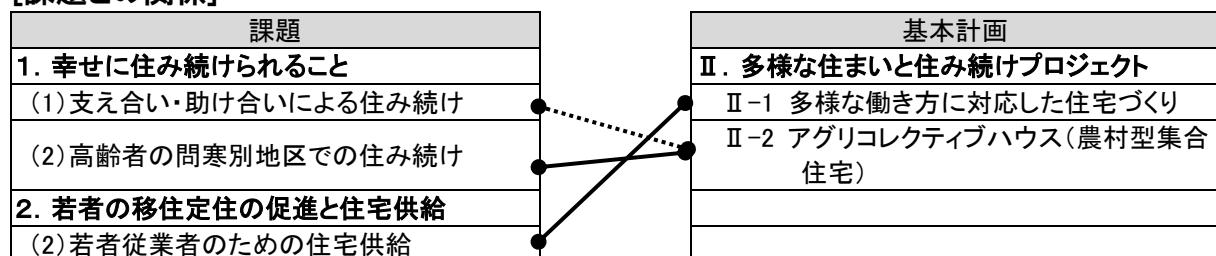
II-1 多様な働き方に対応した住宅づくり

- ・リモートワーク、ワーケーション、コワーキングスペースなど、新しい働き方への対応と公営住宅に入居できない収入層の従業者のための賃貸住宅を供給し、若者就業層などの移住定住を図ります。

II-2 アグリコレクティブハウス（農村型集合住宅）

- ・農業の第一線を退いた人や農業研修生、若い後継者家族などが暮らす集合住宅で、個室に加え、みんなで食事をする、漬物教室を開くなど多目的に利用できるキッチン付き共用スペースのあるシェアハウスを供給します。

【課題との関係】



(3) III. 子どもは地域で育むプロジェクト

～といかんならではの価値を未来のこどもにつなぐ～（ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ（選抜 3 案のうち、本案が将来像に選ばれなかった場合））

【考え方】

- ・問寒別地区の自然やコミュニティ（人のつながり）を活かし、地域みんなで子どもを育むことにより、豊かな人間性を備えた人に育ちます。また、大人になって都会に行っても、「といかん」の良い思い出が残り、U ターンが選択肢になります。

【具体的な取組例（目標）】

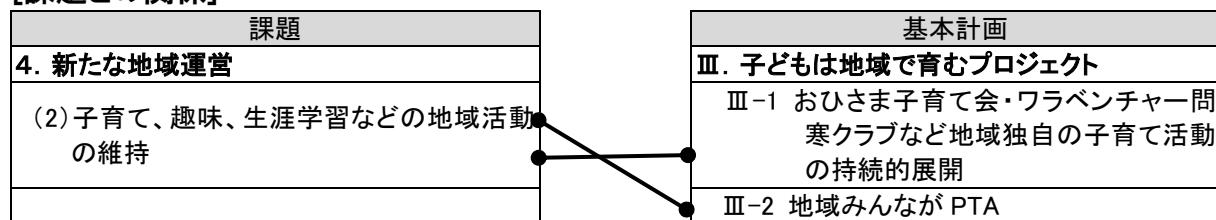
III-1 おひさま子育て会・ワラベンチャー問寒クラブなど地域独自の子育て活動の持続的展開

- ・問寒別地区の豊かな自然などを活かし、「といかん」ならではの子ども活動を盛んにすることにより、問寒別地区で子どもを育てたいと思う親と、そこで育った子どもが親になったとき同じように考えるようになります。

III-2 地域みんなが PTA

- ・問寒別地区の強みである人のつながりを活かして、地域全世帯が PTA に所属し、子どもを地域ぐるみで育み続けます。また、子どもに関わることで高齢者などの大人も幸せになります。

【課題との関係】



(4) IV. 自分ごと地域運営プロジェクト

～「できない！」と言うの前に「何ができる？」か考える～

【考え方】

- ・人口が減っても、快適で安心に暮らせるように、除雪や施設の運営などきめ細やかな生活サービスを維持します。
- ・住民が主体となる地域運営組織が担うことにより、新たな雇用と、それに伴う人口増加に寄与します。

【具体的な取組例（目標）】

IV-1 住民主体の地域運営組織の立ち上げ

- ・地域外からの人材などを活用して、地域の課題を解決するさまざまな取組を行う地域運営組織をつくります。

IV-2 生活支援

- ・徒歩生活者の「移動の足」を確保するため、人口が少ない地域での公共交通を実施します。

IV-3 町内会活動や各種行事の支援

- ・町内会活動や各種行事の企画・運営を支援する他、既存の地域活動組織の困りごとを支援することにより、持続した活動を支えます。

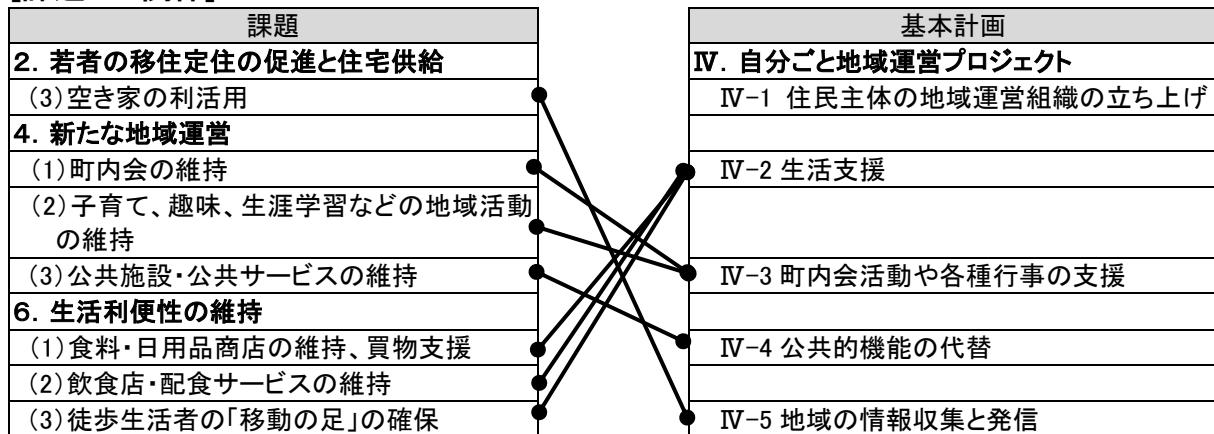
IV-4 公共的機能の代替

- ・現在、行政が担っている地域インフラの維持管理や生活サービス（交通、公共施設の管理、除雪、草刈り）、公営住宅や空き家、賃貸住宅の管理などを担うことにより、サービスが維持でき、地域に新たな雇用が生まれます。

IV-5 地域情報の収集と発信

- ・地域のいい話などの情報を収集し、地域内外に発信することにより、問寒別地区のブランド力を高めます。
- ・地域の困りごとの情報を収集し、その解決方法を考え実行していきます。
- ・空き家、雇用などの情報を収集発信し地域内産業を支援します。

[課題との関係]



(5)V. ずっと続く産業プロジェクト

～ずっと つたわる ひと(人)・の(農)・営み そっと つながる ひとの温もり
もっと つなげる わたしの「といかん」～

【考え方】

- ・「地域全体が一つの会社」の発想で、雇用の確保や臨時雇用の紹介などを、個々の事業者単独ではなく地域全体で取り組むことにより、効率的に実施できます。
- ・問寒別地区の資源と人の能力を使った新たなビジネスを実施していきます。

【具体的な取組例（目標）】

V-1 雇用の確保や研修生の募集・受入れ

- ・問寒別地区の事業者で必要な雇用の確保や酪農業の研修生の募集、受入れなどを地域全体で取組みます。

V-2 人材の融通と仕事・サービスの共同化（共同配食、人材確保・育成など）

- ・季節雇用の融通や通年雇用化により、雇用の創出と定住を促進します。
- ・また、酪農業の繁忙期などに配食サービスをすることによって、酪農家を支援します。

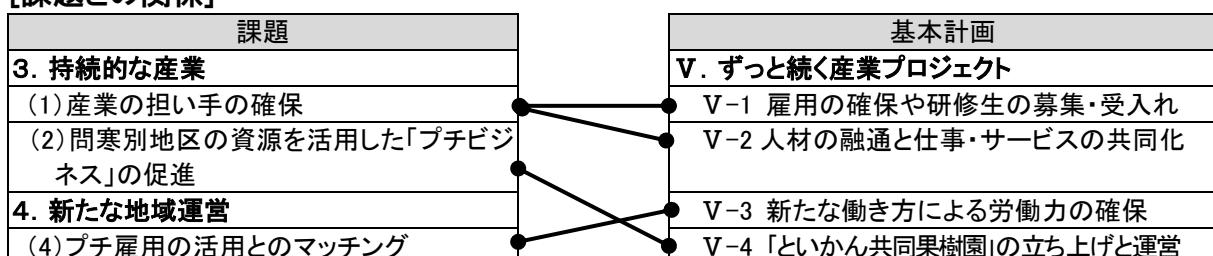
V-3 新たな働き方による労働力の確保（プチビジネスハローワーク）

- ・空いている時間にちょっと働きたい子育て世代やリタイア世代と地元事業者の臨時的に発生する雇用を組み合わせる仕組みをつくることにより、地域循環型経済に寄与します。

V-4 「といかん共同果樹園」の立ち上げと運営

- ・地域の子どもや高齢者など、いろいろな人が関わる共同果樹園を立ち上げ、運営することにより、地域にぎわいが生まれ、生きがいの場となり、「プチビジネス」が生まれます。

【課題との関係】



(6) VI. 小さな多機能複合拠点プロジェクト

～みんなが知り合いだから ほっとけない ほっとかない（ホッといかん）～

【考え方】

- ・買物や飲食やお話ができるスペースを有する小規模多機能拠点を開設します。
- ・施設は空き店舗の活用等を検討し、利用者は地域住民や関係人口などみんなの居場所であり、情報の収集発信基地であり、やりがいの場にもなるものです。

【具体的な取組例（目標）】

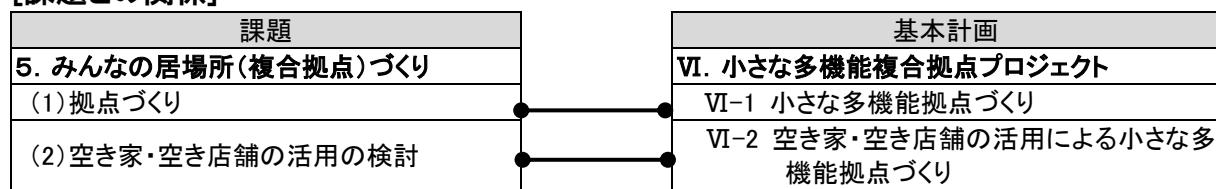
VI-1 小さな多機能拠点づくり

- ・そこに行けば、生活のほとんどの用事が済むような機能として、食料品などの買物や飲食、交通拠点を有し、みんなの居場所となり、地域情報の収集基地となるような小さな多機能複合拠点をつくります。「といかん・みんなの市」もこの場所で開催します。

VI-2 空き家・空き店舗の活用による小さな多機能拠点づくり

- ・小さな多機能拠点づくりにおいては、問寒別地区内の地域資源である空き店舗等をリノベーション（リフォーム）により活用し、まちなかの活性化について検討します。

【課題との関係】



(7) VII. “当たり前”に新たな価値を吹き込むプロジェクト

～オンリーワンなら といかん～(田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働のといかん(選抜3案のうち、本案が将来像に選ばれなかった場合))

【考え方】

- ・問寒別地区に既に当たり前にあるものに価値を見出し、それが地域の誇りになります、次世代につないでいきます。
- ・当たり前に価値を見出すには、外の目が有効ですが、問寒別地区には研究機関や秘境駅に関連する関係人口を有しているので、それを活用します。
- ・また、当たり前を活用したビジネスを展開します。

【具体的な取組例（目標）】

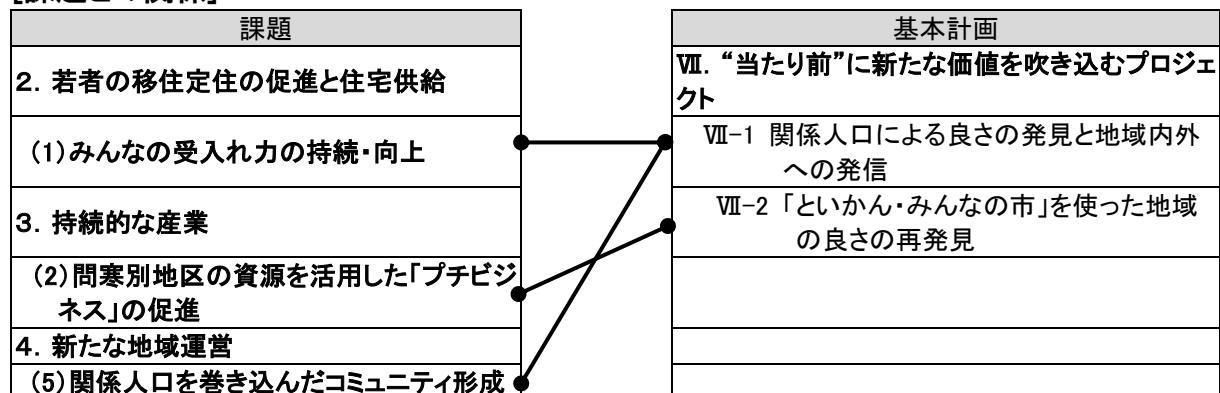
VII-1 関係人口による良さの発見と地域内外への発信

- ・問寒別地区ならではの関係人口の多さを活かして、当たり前のもの（真っ白な雪原、豊かな山菜、清流・・・）に価値を見出し、地域外に発信し「といかん」ファンを増やすとともに、地域内にも発信し、誇りを醸成します。

VII-2 「といかん・みんなの市」を使った地域の良さの再発見

- ・問寒別地区の山菜などの自然の恵みや、手工芸品など地域活動の成果を直売し、プチビジネス化することにより、やりがいのある活動につながります。

【課題との関係】



VII. 基本計画の推進方策

1. 推進上の課題

(1)問寒別地区・地域づくりビジョンを計画で終わらせない

- ・ビジョンづくりが目的ではないので、ビジョンを実現していくことが重要です。厳しい状況の中で、いくつも壁が立ちはだかりますが、みんなで知恵を出し合って乗り越える必要があります。

(2)住民が推進に主体的に関わる

- ・住民の主体的な関わりが無ければビジョンの実現はあり得ません。関わり方は様々ですが、自分ごととして付き合っていく必要があります。

(3)長期間でのモチベーションの維持

- ・長期間の取組になりますので、マンネリ化しがちです。様々な工夫でモチベーションを保つ必要があります。

2. 具体的な推進方策

(1)推進体制

1)住民懇談会の継続

- ・気軽に参加できて自由に発言できるよう「住民懇談会」を継続的に開催します。

2)その都度できる人で実施する

- ・基本計画（重点プロジェクト）の実行では、固定したチームをつくるのではなく、その都度できる人が集まって行動します。

(2)具体的な推進方策

1)やってみる

- ・考えてばかりでは前に進めないので、まず、実験的にやってみて検証し、次につなげるやり方を実践します。

2)優先順位を考える

- ・重要性、取組やすさ、楽しさなどの評価軸で、優先度をみんなで話し合い前に進めます。

3)無理をせず一歩ずつ前に進む

- ・特定の人だけが頑張るのではなく、みんなの力を合わせて一歩ずつ前に進みます。

4)知ってもらう

- ・大勢が参加できなくても、いつでも参加できるように、進捗状況などを発信します。

5)「といかん」の良さを忘れない

- ・色々な成功事例の情報などがたくさんありますが、「といかん」の良さ、「といかん」ならではの取組を常に意識します。

6)子どもたちの未来を考える

- ・目の前のことだけではなく、未来を見すえて進めていきます。

3. 将来的な住民による地域運営のイメージ

- ・将来的には、住民が主体となった地域運営組織の立ち上げを目指します(図VII-1,2)。
- ・地域運営組織は、役場機能のうち、地域で担う方がサービスの向上が望める機能や町内会など地域活動のうち、実施が困難になっている活動を補完します。
- ・地域の楽しみゴトや必要なコトモノをビジネスに変えて様々な仕事を実施することで、自立できるようにします。
- ・住民による地域運営組織が人口の少ない地域での持続可能な地域運営の鍵を握ります。

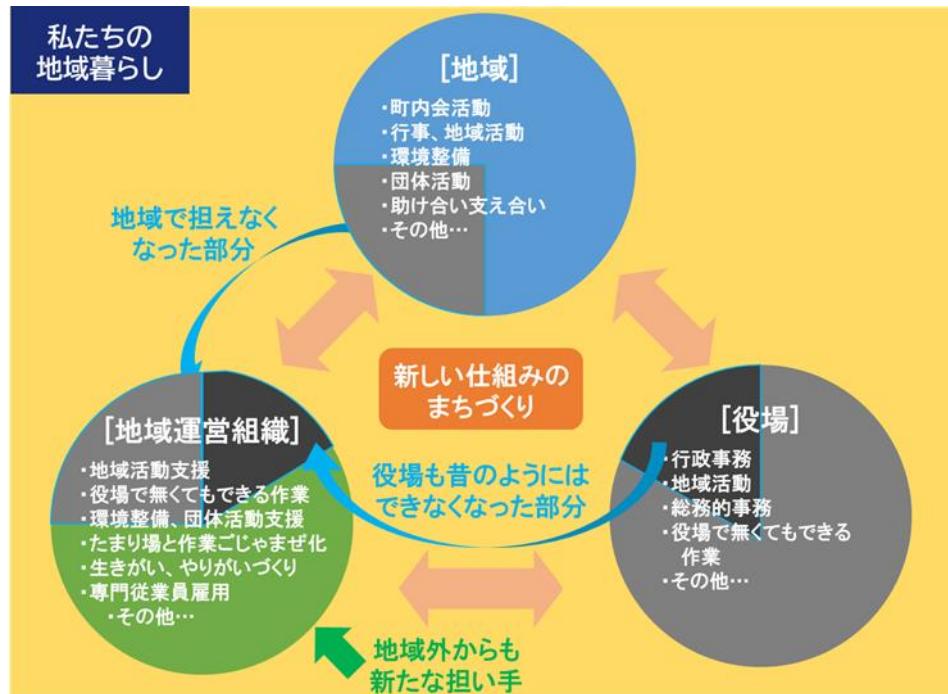


図 VII-1 私たちの地域暮らしを支える「地域」と「地域運営組織」と「役場」の関係



図 VII-2 住民による地域運営組織の機能と地域の事業者、団体等との連携イメージ

VIII. 間寒別地区・地域づくりビジョン策定の過程の詳細内容

1. 統計資料からの現状把握

(1) 幌延町全体の現状

1) 人口動態

① 人口・世帯数の推移 (図VIII-1)

- 人口は昭和 35 年 (1960 年) にピークアウトし、以降、減少傾向です。
- 世帯数は昭和 35 年 (1960 年) に一度ピークアウトし、以降、微増減を繰り返していますが、H27 年 (2015 年) から令和 2 年 (2020 年) では、87 世帯増加しています。

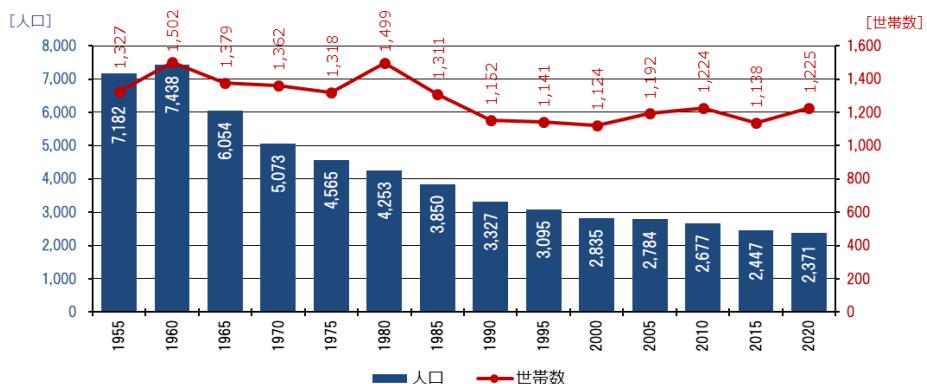


図 VIII-1 人口・世帯数の推移(国勢調査)

② 高齢化 (図VIII-2、3)

- 高齢化率は増加傾向で、令和 2 年 (2020 年) では 29% と宗谷管内で 2 番目に低くなっています。
- 高齢者数は、2020 年にピークアウトし、以降減少すると推計されています。



図 VIII-2 高齢者数、高齢化率の推移
(~2020 国勢調査、2025~国立社会保障・人口問題研究所推計値)

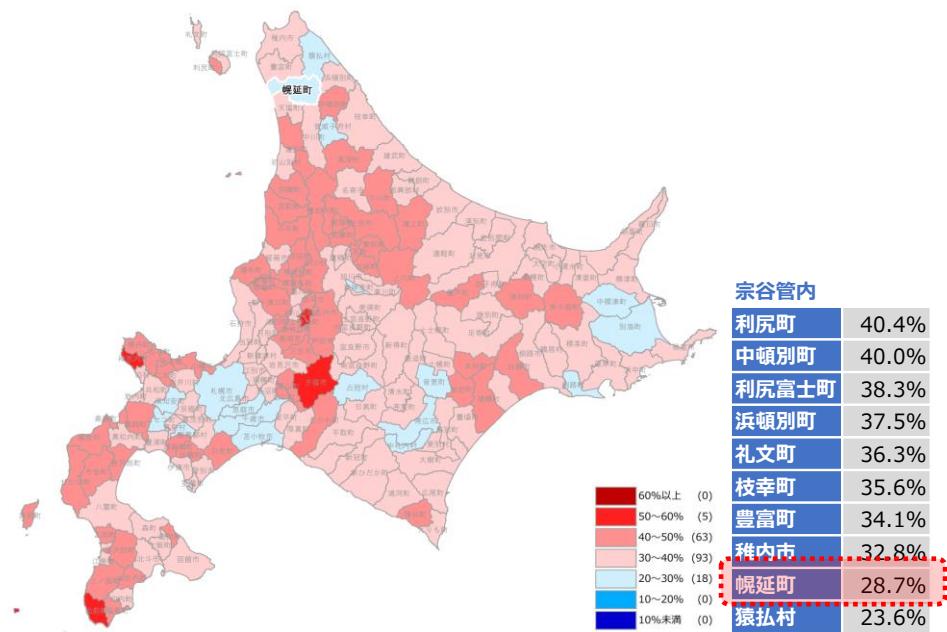


図 VIII-3 道内市町村の高齢化率(令和2年(2020年)国勢調査)

③社会移動（転出入）状況（図VIII-4）

- 「転入一転出」の人数は、H22年（2010年）～H27年（2015年）の5年間では、-75人と転出超過でしたが、H27年（2015年）～令和2年（2020年）では+111人転入超過になりました。
- H27年（2015年）～令和2年（2020年）の5歳階級別では5～19歳と55歳以上は転出超過ですが、それ以外は転入超過です。

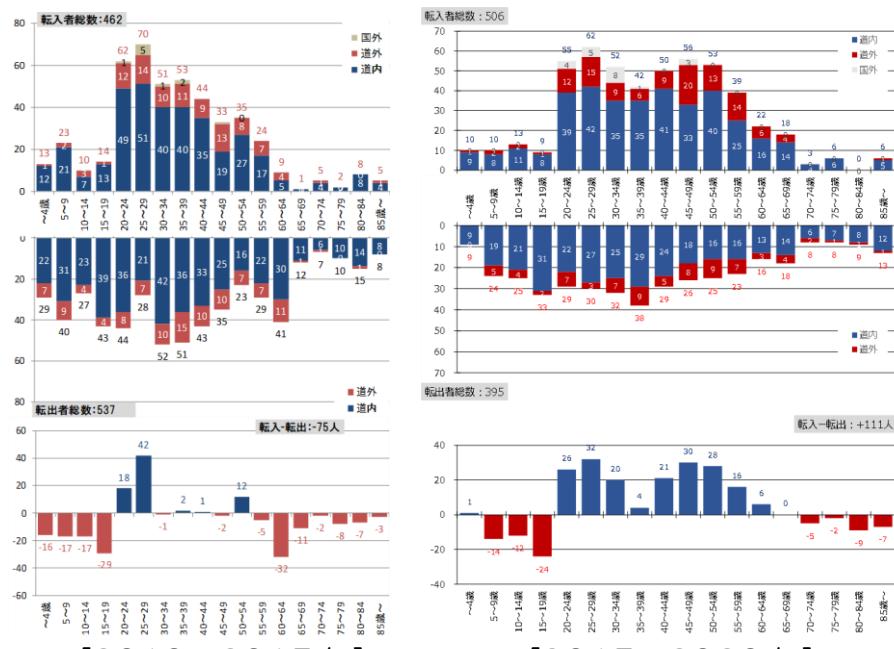


図 VIII-4 転出入状況(国勢調査 2015、2020年)

2)産業

①産業別就業者数 (図VIII-5)

- ・近年、減少傾向だった就業者数ですが、平成 27 年（2015 年）から令和 2 年（2020 年）で増加し 1,432 人となりました。
- ・産業別では、1 次・2 次産業で、同様に増加しました。



図 VIII-5 産業別就業者数(国勢調査)

②売上高 (企業単位) (図VIII-6)

- ・幌延町の全産業の売上高は 6,055 百万円で、そのうち卸売・小売業が 29.7% と最も高く、次いで、建設業 17.7% などです。
- ・農業、林業の生産額は 383 百万円 6.2% で北海道の割合 1.5% に比べ高く、重要な産業となっています。



図 VIII-6 産業による売上高(経済センサス 活動調査)

(2)問寒別地区の現状

1)人口動態（北総研作成）

国勢調査や令和2年（2020年）3月31日現在の住民基本台帳データを分析した結果を以下に記します。

①人口・世帯数の推移（図VIII-7,8）

- 問寒別地区の人口は、昭和30年（1955年）の2,584人以降減少し、令和2年（2020年）には302人になっています。
- 幌延町全体に対する問寒別地区人口の割合は、昭和30年（1955年）の35%以降減少傾向にあり、令和2年（2020年）には13%になっています。
- 問寒別地区の世帯数は、昭和35年（1960年）の520世帯以降減少傾向でしたが、令和2年（2020年）には45年ぶりに増加し151世帯になっています。このことは、新たな世帯の転入があることを示していると考えられます。
- 幌延町全体に対する問寒別地区世帯数の割合は、人口の場合と同様に昭和35年（1960年）の35%以降減少傾向にあり、令和2年（2020年）には13%になっています。

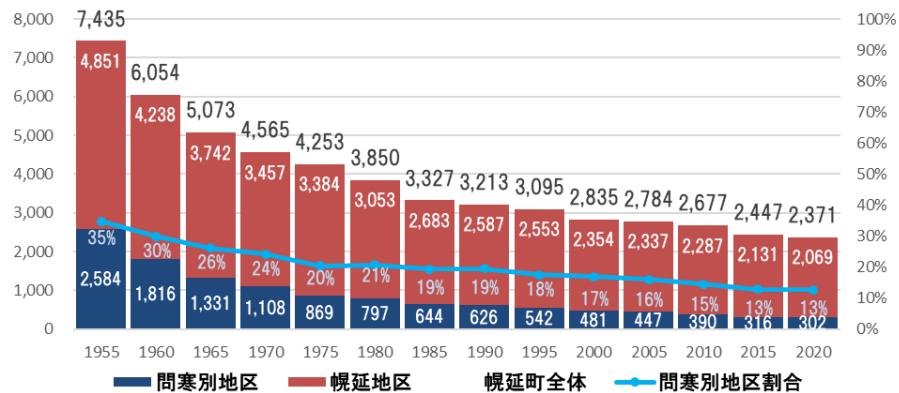


図 VIII-7 幌延町の地域別人口と問寒別地区人口割合の推移(国勢調査)



図 VIII-8 幌延町の地域別世帯数と問寒別地区世帯数割合の推移(国勢調査)

②年代構成（人口ピラミッド）（図VIII-9,10）

- ・幌延町全体の人口では、65歳～69歳の年代が最も多く、次いで60～64歳、70～74歳、55～59歳、40～44歳が同程度となっています。若年者人口は、中学校を卒業する15歳～19歳や、高校を卒業する20～24歳の年代が極端に少ないです。
- ・問寒別地区では、人口が少ないため年代別人口にはばらつきがありますが、55歳以上の人団が多い一方で、45～49歳人口と、10～24歳人口が極端に少ないです。

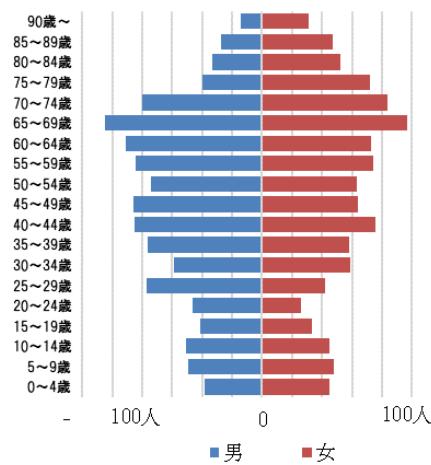


図 VIII-9 人口ピラミッド（幌延町全体）
(住民基本台帳データ(令和2年3月31日))

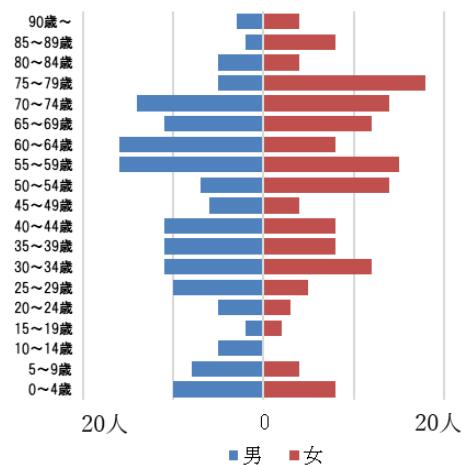


図 VIII-10 人口ピラミッド（問寒別地区）
(住民基本台帳データ(令和2年3月31日))

2)問寒別地区の転出入状況（北総研作成）

2015 (H27) 年 4 月 1 日～2023 (R1) 年 1 月 31 日の 7 年 10 ヶ月間の住民基本台帳データ(以下、住基データ)を分析した結果を以下に記します。

①問寒別地区の出生・死亡・転出入状況（表VIII-1、図VIII-11）

- ・問寒別地区の人口に影響を与える自然増減の出生と死亡、社会増減の転出と転入について、上記期間の人数を整理します。
- ・自然増減では「出生」が 32 人に対し「死亡」41 人とその差 9 人が人口減少しました。
- ・社会増減では「転入」が 230 人に対し「転出」270 人とその差 40 人が人口減少しました。
- ・自然増減、社会増減合わせると、49 人、年平均 6.3 人の人口減少です。
- ・5 歳階級別で人口増加している世代では、0～4 歳が 21 人と最も多く、次いで 20～24 歳 10 人です。若い世代が転入し出生が多いことが要因と考えられます。
- ・5 歳階級別で人口減少している世代では、80～84 歳が-14 人と最も多く、次いで 15～19 歳が-9 人などです。高齢者の死亡や中学卒業時の転出やが多いことなどが要因と考えられます。

問寒別地区	出生	死亡	転入	転出	増減
	32	41	230	270	-49

表 VIII-1 問寒別地区の自然増減、社会増減
(住基データ 2015 年 4 月 1 日～2023 年 1 月 31 日)

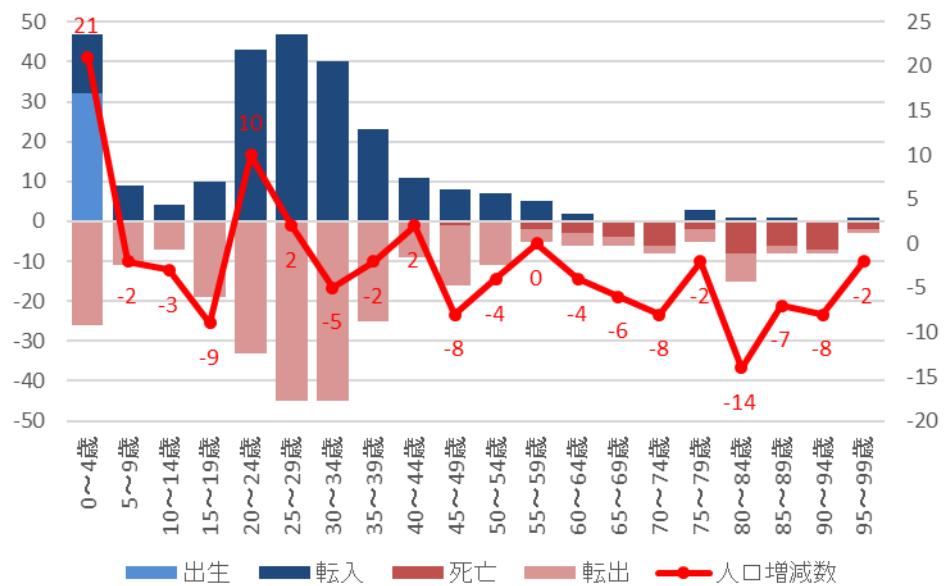


図 VIII-11 問寒別地区の 5 歳階級別の自然増減、社会増減
(住基データ 2015 年 4 月 1 日～2023 年 1 月 31 日)

②転出入場所と人数 (図VIII-12、13)

- 問寒別地区の転出入状況で転出入者数の合計が最多多いのは道外の 160 人、次いで宗谷 79 人、石狩・空知管内 62 人です。
- 町内の幌延地区への転出入者数の合計は 56 人です。
- 転出超過人数では、最多多いのは上川管内 14 人で、次いで石狩・空知管内 12 人などです。
- 転入超過なのは、宗谷管内 3 人と留萌管内 1 人です。
- 転出人口の年齢構成を見ると、39 歳以下の年代が過半を占めています。ただし。幌延地区へ転居する人口では、75 歳以上も多く 1/4 以上を占めています。
- 問寒別地区内での人の動きでは、上問寒・中間寒と問寒別(市街)への両方向の移動が見られ、上問寒は 3 人の転出超過、中間寒は 2 人の転入超過です。

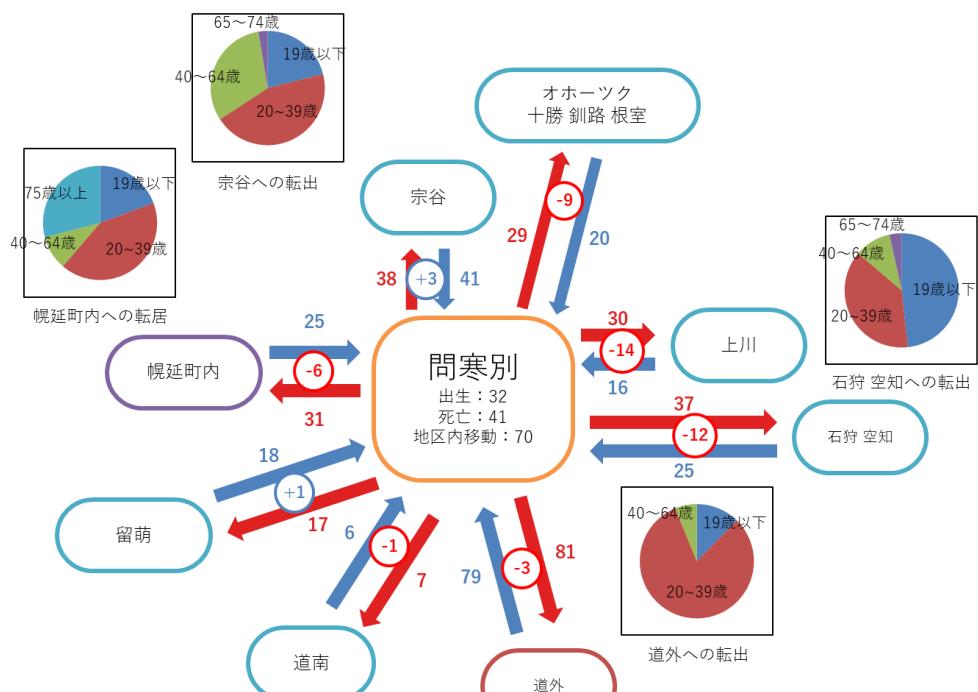


図 VIII-12 問寒別地区と他地区・市町村との転出入状況
(住民基本台帳データ 2015 年度～2023 年 1 月 31 日)

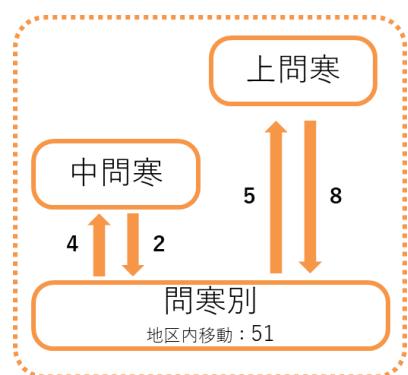


図 VIII-13 問寒別地区内の地区間移動状況(住民基本台帳データ 2015 年度～2023 年 1 月 31 日)

③地区別・年齢構成別人口（表VIII-2、3）

- 地区別・年齢構成別人口では、幌延地区、問寒別地区の40～64歳人口がそれぞれ34%、35%で、65歳以上人口はそれぞれ29%、32%です。
- 19歳以下人口では、幌延地区では地域住民の17%に対し、問寒別地区は14%と、若年人口割合が小さい傾向です。

	～19歳	20～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳～	総計
幌延	322	379	645	315	255	1916
問寒別	41	55	102	45	49	292
上問寒	2	4	17	0	5	28
中問寒	4	13	19	11	8	55
問寒別西	0	0	2	2	3	7
問寒別第1	16	20	23	1	12	72
問寒別第2	5	6	13	14	5	43
問寒別第3	8	4	9	8	9	38
問寒別東	3	4	10	3	2	22
問寒別南	3	3	7	2	0	15
問寒別北	0	1	2	2	5	10
雄興	0	0	0	2	0	2
総計	363	434	747	360	304	2208

表 VIII-2 地区別・年齢構成別人口
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

	～19歳	20～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳～	総計
幌延	17%	20%	34%	16%	13%	100%
問寒別	14%	19%	35%	15%	17%	100%
上問寒	7%	14%	61%	0%	18%	100%
中問寒	7%	24%	35%	20%	15%	100%
問寒別西	0%	0%	29%	29%	43%	100%
問寒別第1	22%	28%	32%	1%	17%	100%
問寒別第2	12%	14%	30%	33%	12%	100%
問寒別第3	21%	11%	24%	21%	24%	100%
問寒別東	14%	18%	45%	14%	9%	100%
問寒別南	20%	20%	47%	13%	0%	100%
問寒別北	0%	10%	20%	20%	50%	100%
雄興	0%	0%	0%	100%	0%	100%
総計	16%	20%	34%	16%	14%	100%

表 VIII-3 地区別・年齢構成別人口割合
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

④地区別の住宅の種類別人口（表VIII-4、5）

- 幌延地区における住宅の種類別の各地区人口では、戸建てが58%と最も多いが、アパート、社宅、公営住宅、教職員住宅、特養・障がい者施設など、多様な住まいが確保されている状況です。
- 問寒別地区では、戸建てが79%で、市街地部分に社宅、公営住宅、教職員住宅等が立地していますが、それ以外は全て戸建てです。

	戸建	アパート	社宅	公営住宅	特公賃住宅	教員・職員住宅	町営住宅	移住促進住宅	特養施設	障害者施設	総計
幌延	1110	124	106	252	47	177	22	0	20	58	1916
問寒別	231	0	10	22	0	21	0	8	0	0	292
上問寒	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
中問寒	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
問寒別西	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
問寒別第1	11	0	10	22	0	21	0	8	0	0	72
問寒別第2	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43
問寒別第3	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
問寒別東	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
問寒別南	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
問寒別北	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
雄興	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
総計	1341	124	116	274	47	198	22	8	20	58	2208

表 VIII-4 居住地区・住宅の種類別人口
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

	戸建	アパート	社宅	公営住宅	特公賃	教員・	町営住宅	移住促進	特養施設	障害者	総計
幌延	58%	6%	6%	13%	2%	9%	1%	0%	1%	3%	100%
問寒別	79%	0%	3%	8%	0%	7%	0%	3%	0%	0%	100%
上問寒	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
中問寒	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別西	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別第1	15%	0%	14%	31%	0%	29%	0%	11%	0%	0%	100%
問寒別第2	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別第3	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別東	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別南	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
問寒別北	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
雄興	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
総計	61%	6%	5%	12%	2%	9%	1%	0%	1%	3%	100%

表 VIII-5 居住地区・住宅の種類別人口割合
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

⑤地区別の世帯構成別世帯数 (表VIII-6、7)

- ・居住地区別の世帯構成別世帯数について、幌延地区では、一般単身世帯が最も多く37%、次いで子育て世帯15%、後期高齢単身世帯10%、問寒別両地区では、一般単身世帯が最も多く25%、次いで、後期高齢単身世帯14%、夫婦のみ・子育て世帯12%です。
- ・問寒別西地区では後期高齢単身世帯が50%です。

	後期高齢 単身	高齢 単身	一般 単身	後期高齢 夫婦	高齢夫婦	夫婦のみ	後期高齢 者含む子	高齢者含 む子育て	子育て	後期高齢 者含む	高齢含む	その他	総計
幌延	110	94	395	53	87	76	6	3	158	28	14	44	1068
問寒別	20	8	36	9	13	17	0	2	18	11	3	8	145
上間寒	2	0	3	0	0	4	0	0	1	2	0	1	13
中間寒	2	1	4	0	2	1	0	1	1	5	2	3	22
問寒別西	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
問寒別第1	9	1	15	1	0	5	0	0	9	0	0	1	41
問寒別第2	2	1	7	3	5	1	0	0	3	0	1	1	24
問寒別第3	3	5	4	4	1	1	0	0	3	0	0	0	21
問寒別東	0	0	3	0	2	3	0	0	1	1	0	1	11
問寒別南	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	1	5
問寒別北	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
雄興	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	130	102	431	62	100	93	6	5	176	39	17	52	1213

表 VIII-6 世帯構成・居住地区別人口
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

	後期高齢 単身	高齢 単身	一般 単身	後期高齢 夫婦	高齢夫婦	夫婦のみ	後期高齢 者含む子	高齢者含 む子育て	子育て	後期高齢 者含む	高齢含む	その他	総計
幌延	10%	9%	37%	5%	8%	7%	1%	0%	15%	3%	1%	4%	100%
問寒別	14%	6%	25%	6%	9%	12%	0%	1%	12%	8%	2%	6%	100%
上間寒	15%	0%	23%	0%	0%	31%	0%	0%	8%	15%	0%	8%	100%
中間寒	9%	5%	18%	0%	9%	5%	0%	5%	5%	23%	9%	14%	100%
問寒別西	50%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	100%
問寒別第1	22%	2%	37%	2%	0%	12%	0%	0%	22%	0%	0%	2%	100%
問寒別第2	8%	4%	29%	13%	21%	4%	0%	0%	13%	0%	4%	4%	100%
問寒別第3	14%	24%	19%	19%	5%	5%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	100%
問寒別東	0%	0%	27%	0%	18%	27%	0%	0%	9%	9%	0%	9%	100%
問寒別南	0%	0%	0%	0%	20%	40%	0%	20%	0%	0%	0%	20%	100%
問寒別北	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	0%	100%
雄興	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
総計	11%	8%	36%	5%	8%	8%	0%	0%	15%	3%	1%	4%	100%

表 VIII-7 世帯構成・居住地区別人口割合
(住民基本台帳データ 2023年1月31日時点)

(3) 人口ビジョンによる問寒別地区の人口目標

平成 27 年に策定された「幌延町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョンを令和元年度（2019 年度）に修正した人口推計（以下、幌延町人口ビジョン修正値（図VIII-14、表VIII-10））を用いて、問寒別地区の人口推計と目標値の検討を行います。

1)幌延町人口ビジョンによる人口推計の補正の流れ

次の流れで問寒別地区の人口目標を検討します。

step1：幌延町人口ビジョンの幌延町全体の推計値の補正

- 幌延町人口ビジョン修正値の推計値を住民基本台帳（以下、住基台帳）の令和 4 年（2022 年）9 月末日値を基に 2040 年までの推計値を補正します。

step2：問寒別地区の人口推計の算出

- 問寒別地区の人口推計について、step1 で算出した幌延町人口ビジョン修正値の補正值から 2 通りの問寒別地区人口割合を仮定し算出します。

step3：問寒別地区の人口の目標値の検討

- 問寒別地区の令和 4 年（2022 年度）の住基台帳による人口割合が、令和 5 年（2023 年度）以降も維持されると仮定した目標値の最小値を設定します。
- 問寒別地区は令和 4 年（2022 年度）に問寒別地区・地域づくりビジョンを策定し、様々な施策展開を実施する予定です。それらの施策により、問寒別地区人口が幌延町全体に占める割合の上昇を仮定した目標値の最大値を設定します。

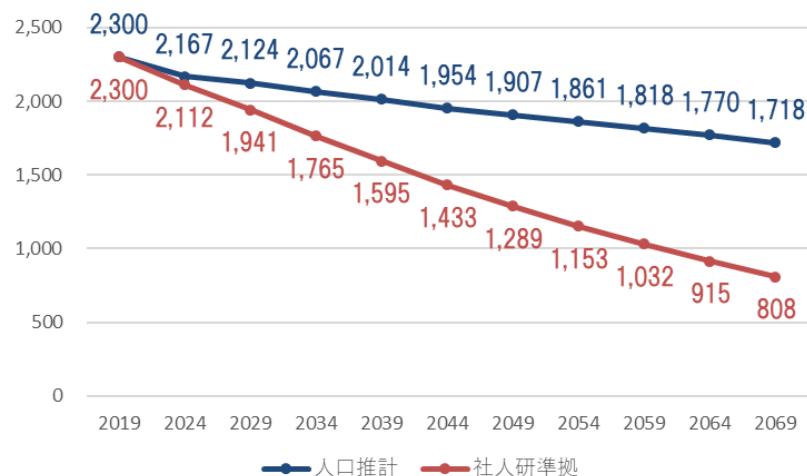


図 VIII-14 幌延町人口ビジョン修正値

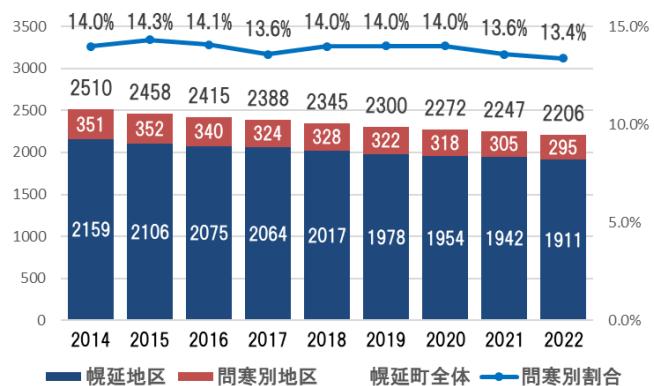
	R1 2019	R6 2024	R11 2029	R16 2034	R21 2039	R26 2044	R31 2049	R36 2054	R41 2059	R46 2064	R51 2069
独自推計	2,300	2,167	2,124	2,067	2,014	1,954	1,907	1,861	1,818	1,770	1,718
社人研準拠	2,300	2,112	1,941	1,765	1,595	1,433	1,289	1,153	1,032	915	808

表 VIII-8 幌延町人口ビジョン修正値

①step1 峴延町人口ビジョンの幌延町全体の推計値の補正

○幌延町人口ビジョン修正値の令和5年（2022年）の推計人口と同年9月末日時の住基台帳の人口との差による補正係数と補正值の算出

- ・平成26年（2014年）～令和4年（2022年）の幌延地区と問寒別地区の人口と問寒別地区人口割合を図VIII-15に示します。
- ・幌延町人口ビジョン修正値は2019年から5年毎に推計されています。2022年の値を得るため、2019～2024年の5年間は均等に減少すると仮定すると、2022年の幌延町人口ビジョン修正値の独自推計値は2,220人で同年の住基台帳の幌延町人口2,206との差は-14人、社人研推計準拠値の推計値2187人で+3人です。補正係数をこの差の推計値の割合とし、それぞれ-99.4%、+100.9%となります。
- ・この補正係数を掛けた補正推計値では、R22年（2040年）は、独自推計で1989人となります（図VIII-16、表VIII-11）。



図VIII-15 峴延地区、問寒別地区の人口と問寒別地区人口割合の推移(住基台帳各年9月末日値)

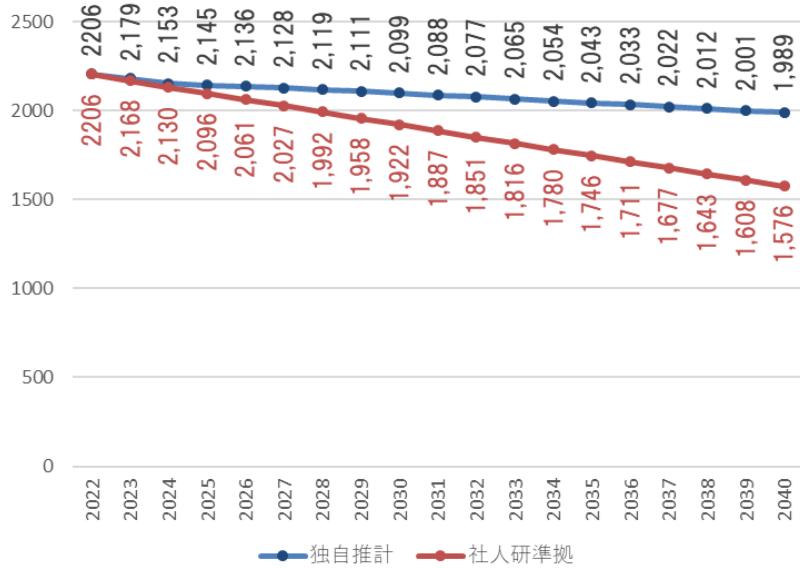


図 VIII-16 住基台帳の 2022 年人口で補正した各年推計値(2022~2040 年)

	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037	R20 2038	R21 2039	R22 2040
独自推計	2206	2,179	2,153	2,145	2,136	2,128	2,119	2,111	2,099	2,088	2,077	2,065	2,054	2,043	2,033	2,022	2,012	2,001	1,989
社人研準拠	2206	2,168	2,130	2,096	2,061	2,027	1,992	1,958	1,922	1,887	1,851	1,816	1,780	1,746	1,711	1,677	1,643	1,608	1,576

表 VIII-9 住基台帳の 2022 年人口で補正した各年推計値(2022~2040 年)

②Step2 問寒別地区の人口推計の算出

○Step1 の幌延町全体の人口推計値からの問寒別地区の推計値の算出方法

- ・住基台帳での問寒別地区人口の幌延町全体人口の平成 26 年 (2014 年) ~令和 4 年 (2022 年) の割合は減少傾向で最小 13.4% (2022 年) から最大 14.3% (2015 年) です (前述の図VIII-15)。
- ・こでは、次の 2 つの条件で令和 5 年 (2023 年) 以降の推計を行います (図VIII-17、表VIII-12)。

条件 A. 令和 5 年 (2023 年) 以降も令和 4 年 (2022 年) の割合 13.4% で推移すると仮定

条件 B. 問寒別地区の人口割合は、令和 4 年 (2022 年) の割合 13.4% から令和 22 年 (2040 年) までの間で、2015 年の最大割合 14.3% まで均等に上昇すると仮定。

○Step1 の幌延町全体の人口推計値からの問寒別地区の推計値の算出結果

[社人研準拠推計]

- ・条件 A では、2040 年の推計値は 225 人、条件 B では 211 人となりました (図VIII-18、表VIII-13)。

[独自推計]

- 条件 A では、2040 年の推計値は 266 人、条件 B では 284 人となりました（図VIII-19、表VIII-14）。

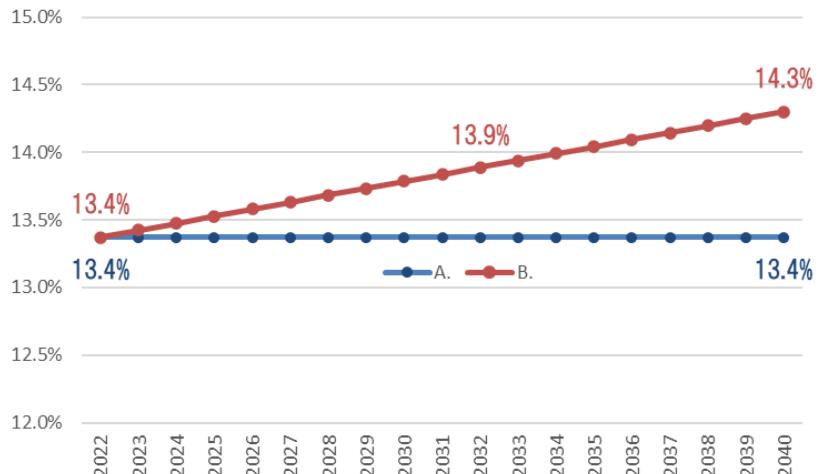


図 VIII-17 A と B 問寒別地区の人口割合の仮定値

	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037	R20 2038	R21 2039	R22 2040
A.	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%
B.	13.4%	13.4%	13.5%	13.5%	13.6%	13.6%	13.7%	13.7%	13.8%	13.8%	13.9%	13.9%	14.0%	14.0%	14.1%	14.1%	14.2%	14.2%	14.3%

表 VIII-10 A と B 問寒別地区の人口割合の仮定値

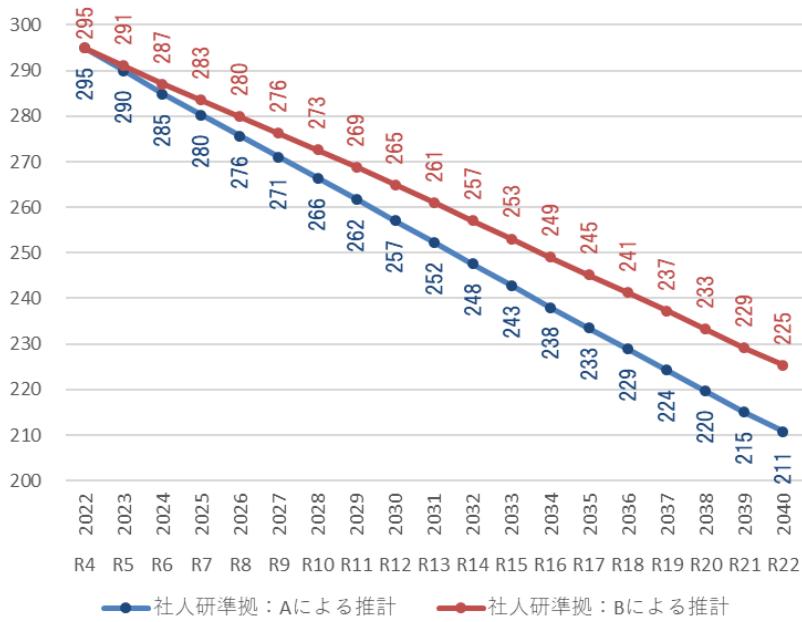


図 VIII-18 社人研準拠の A、B による問寒別地図区の人口推計

	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037	R20 2038	R21 2039	R22 2040
条件A	295	290	285	280	276	271	266	262	257	252	248	243	238	233	229	224	220	215	211
条件B	295	291	287	283	280	276	273	269	265	261	257	253	249	245	241	237	233	229	225

表 VIII-11 社人研準拠の A、B による問寒別地図区の人口推計

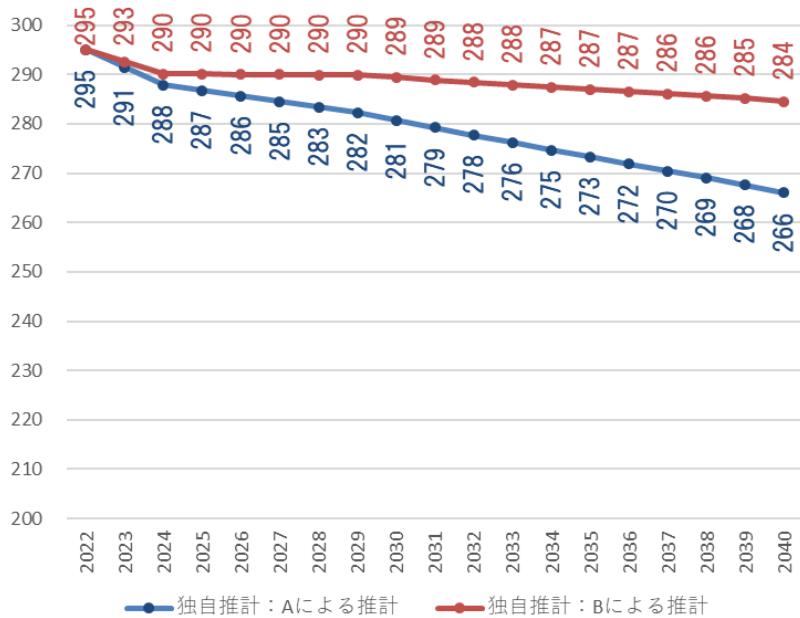


図 VIII-19 独自推計の A、B による問寒別地図区の人口推計

	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037	R20 2038	R21 2039	R22 2040
条件A	295	291	288	287	286	285	283	282	281	279	278	276	275	273	272	270	269	268	266
条件B	295	293	290	290	290	290	290	290	289	289	288	288	287	287	287	286	286	285	284

表 VIII-12 独自推計の A、B による問寒別地区の人口推計

③Step3 問寒別地区の人口の目標値の検討

○目標値設定の考え方

- 問寒別地区・地域づくりビジョンの策定を基に令和5年（2023年）以降、様々な施策が実施されることから、幌延町人口ビジョン修正値を基にした推計値より、増加する可能性が大きいと考えられます。

○最大目標値と最低目標値の設定

- 問寒別地区の2040年の人口目標値の最大値として、条件Bの2040年までに人口割合が14.3%まで上昇する仮定で算出した284人を最大値に、条件Aの2022年の人口割合13.4%で以降も推移する過程で算出した266人を最小値として設定します。
- 問寒別地区の2040年の人口目標値は266人～284人となります。

○社人研準拠推計値との差

- 社人研準拠の推計値は、今のままの状況が変わらない場合の人口推計です。一方、独自推計は、様々な施策を実行することで状況を変えていく場合の目標値です。
- 条件Aでは、2040年の推計値は社人研準拠が211人、独自推計が266人で、そ

の差は 55 人です。2023 年から 17 年間の平均では、約 3.2 人です。

- ・条件 B では、2040 年の推計値は社人研準拠が 225 人、独自推計が 284 人で、その差は 59 人です。2023 年から 17 年間の平均では、約 3.5 人です。
- ・以上から、2040 年の独自推計の目標値を達成するためには、社人研準拠の推計人口より平均で年間 3.2~3.5 人、つまり年間 4 人程度多く推移すると目標値が実現します。

2. 住民アンケート「日常の移動と暮らしに関するアンケート調査」

(1)アンケート調査の概要

1)目的

- ・問寒別地区における重要課題である移動手段と日常生活に必要な機能の程度などを把握します。

2)方法

- ・配布回収：郵送及び直接手渡しとしました。

3)配布対象と回収率（表VIII-15）

- ・回収率は居住地により 13.7%から 38.5%で、全体では 30.2%です。

居住地等	対象人口*	回収数	回収率
問寒別市街	135	52	38.5%
上問寒	26	5	19.2%
中問寒	51	7	13.7%
問寒別市街以外の問寒別・雄興	46	11	23.9%
通勤者・一時滞在者	60	21	35.0%
計	318	96	30.2%

*令和4年4月1日現在

表 VIII-13 配布対象別の回収率等

(2)アンケート結果

1)回答者属性

①年齢 (図VIII-20)

- 年齢では60歳未満が57%、60歳以上が43%です。

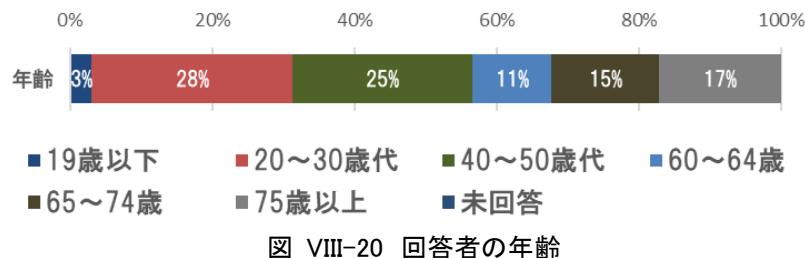


図 VIII-20 回答者の年齢

②職業 (図VIII-21)

- 職業では「会社員・公務員」が29%と最も多く、次いで「無職（主婦など）」の26%、「農業」18%と農業従事者の割合が大きいのが特徴です。

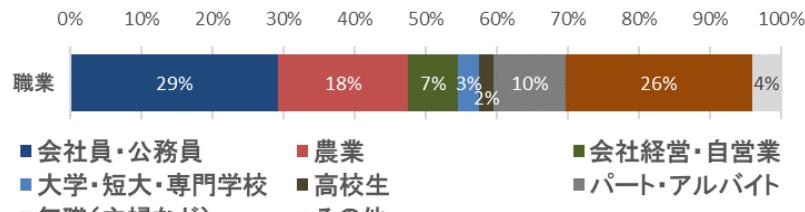


図 VIII-21 回答者の職業

③居住地 (図VIII-22)

- 居住地では「問寒別市街」が53%と最も多く、次いで「通勤者・一時滞在者」の21%、「市街以外の問寒別・雄興」11%などです。

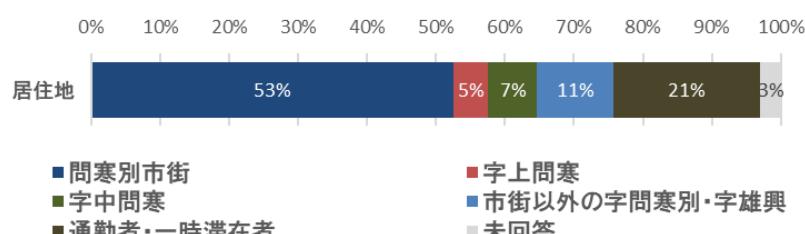


図 VIII-22 回答者の居住地

2)自動車免許について

①自動車免許の有無 (図VIII-23)

- 「自動車・バイクの免許がある」が 81%に対し、「ペーパードライバー」 5%、「もともと取得していない」 8%、「返納した」 5%を合わせた 18%が車を運転しない人と考えられます。

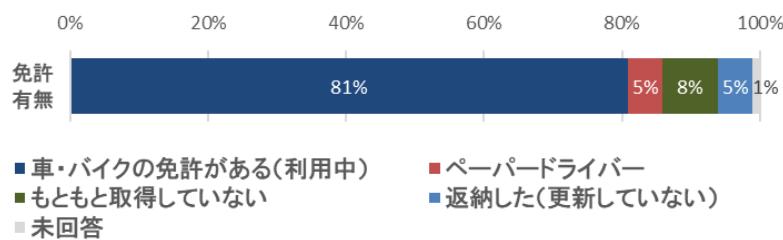


図 VIII-23 自動車免許の有無

②自動車の運転への考え方 (図VIII-24)

- 自動車の運転を「やめるつもりはない」が 69%に対し、「5年以内にやめるつもり」 4%、「6年以上先にはやめるつもり」 5%、「運転はやめた(しない)」 4%を合わせた 13%が近い将来運転しなくなる意向を有しています。

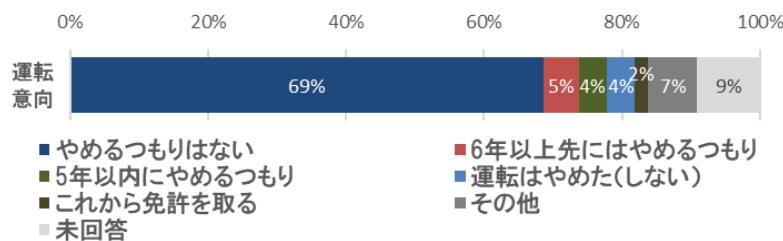


図 VIII-24 自動車の運転への考え方

③自由に使える自動車の有無 (図VIII-25)

- 「いつでも自由に使える車がある」が 69%に対し、「使う場合、家族との調整等が必要」 13%、「車はある、自分は運転できない」 8%、「車はない」 7%を合わせた 28%が車の利用上何らかの条件を有しています。

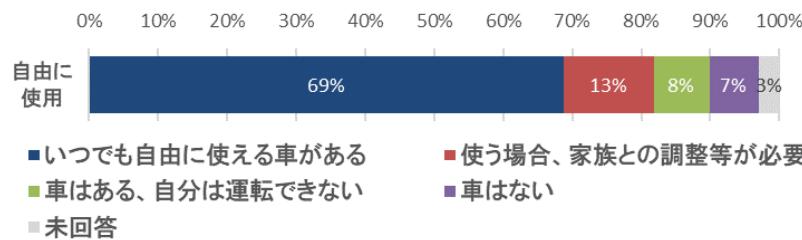


図 VIII-25 自由に使える自動車の有無

3)送迎について

①送迎について (図VIII-26)

- ・「送迎してもらうことはない」が 56%と最も多く、次いで「たまに送迎してもらっている」32%、「日常的に送迎してもらっている」7%を合わせた送迎してもらう人は39%です。
- ・また、「送迎してほしい」が 3%と少数ですが、送迎を必要としている方がいることがわかります。

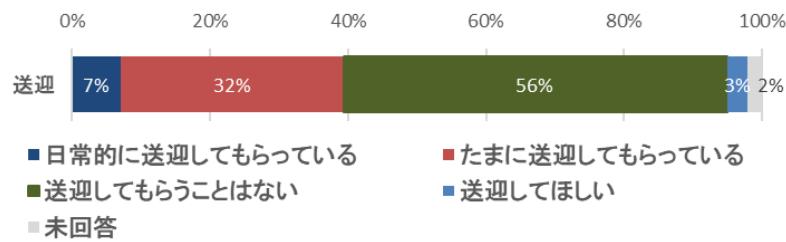


図 VIII-26 送迎について

②送迎してくれる相手 (図VIII-27)

- ・送迎してくれる相手について、「家族」52%と「親戚」3%を合わせた 55%が血縁関係者です。
- ・一方、血縁関係者以外では、「近所の人」5%、「友知人」5%、「その他」7%を合わせた 17%を占め、血縁以外の支え合い・助け合いがあると考えられます。
- ・「その他」では、「患者輸送車両 (バス)」や「会社の人」、「地域おこし協力隊」などの回答がありました。

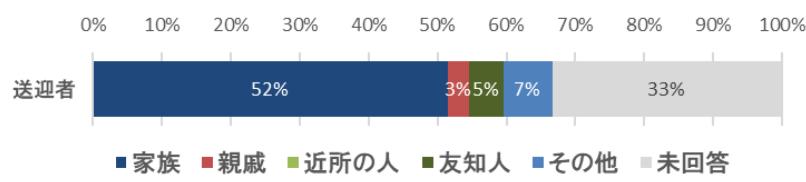


図 VIII-27 送迎してくれる相手

4)ハイヤー運賃等助成制度について

①ハイヤー運賃等助成制度の認知について（図VIII-28,29）

- ・全体では「知っていた」が68%で「知らなかった」が32%です。
- ・年齢別では「知っていた」が60歳未満で54%に対し60歳以上81%とこの制度の必要度が高いと考えられる高齢者の認知度が高く、行政の周知の効果が出ていると考えられます。

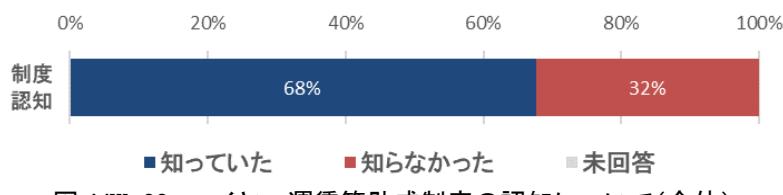


図 VIII-28 ハイ Ya - 運賃等助成制度の認知について（全体）

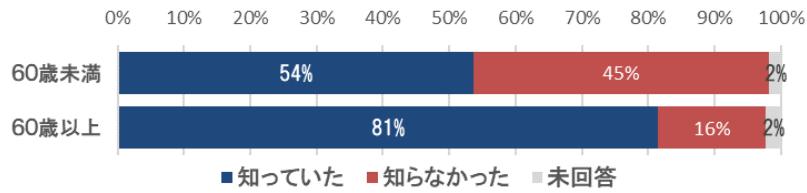


図 VIII-29 ハイ Ya - 運賃等助成制度の認知について（年齢別）

②ハイヤー運賃等助成制度の利用の有無（図VIII-30、表VIII-16）

- ・制度を「利用している」が4%で制度の「対象者ではない」が76%、「対象者だが申請していない」10%、「申請したが利用していない」2%です。
- ・利用者属性では、75歳以上が2人、65～74歳1人、40～49歳1人と、高齢者が多いです。

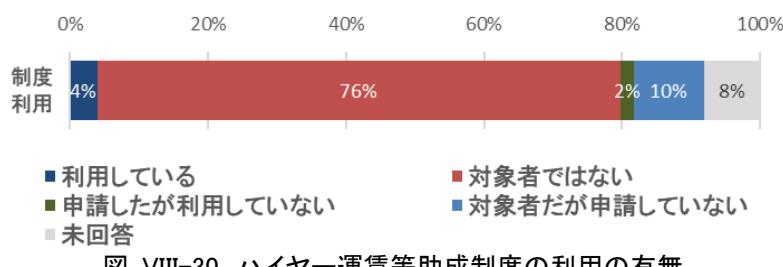


図 VIII-30 ハイ Ya - 運賃等助成制度の利用の有無

年齢	利用者数	職業	利用者数
40～49歳	1人	無職	4人
65～74歳	1人	それ以外	0人
75歳以上	2人		
その以外	0人		
計	4人	計	4人

表 VIII-14 ハイ Ya - 運賃等助成利用者の属性

③ハイヤー運賃等助成制度を利用しない理由（図VIII-31、表VIII-17）

- ・前問で「対象者が申請していない」、「申請したが利用していない」と回答した人の利用しない理由では「幌延市街地区に行っても利用する機会がないため」が50%と最も多く、次いで「ハイヤー以外の移動手段を使うため」20%と「利用しづらいため」20%です。
- ・上述の利用しない理由のうち「利用しづらいため」の理由では、「問寒別と幌延間で利用できないため」が1人、「問寒別地区内で利用できないため」が5人です。



図 VIII-31 ハイヤー運賃等助成制度を利用しない理由

利用しづらい理由	回答者数
問寒別と幌延間で利用できないため	1人
問寒別地区内で利用できないため	5人
その他	0人

表 VIII-15 ハイヤー運賃等助成制度を利用しづらい理由

④移動手段の認知・利用状況について（図VIII-32）

- ・問寒別地区の移動手段としてはデマンド車両※、スクールバス、患者輸送車両（バス）、鉄道、ハイヤーがあり、それぞれについて利用できることの認知と利用の有無について把握しました。
- ・これらの移動手段を「利用できることを知っている」では、ハイヤーの45%以外は73~82%です。
- ・これらの移動手段を「利用したことがある」では、患者輸送車両（バス）が26%と最も多く、次いで「鉄道」20%、「デマンド車両」9%、「スクールバス」8%、「ハイヤー」6%と多くの人は自家用車を利用していることが考えられます。
- ・人口規模の小さい地域では地域公共交通の利用者は少ないが、利用者にとっては、そこで生活する上で不可欠な移動手段となっており、ニーズの多寡で必要性を判断できない一方、利用者が少ない公共交通のあり方の検討が求められます。

※デマンド車両：地域おこし協力隊が週3日（月、水、金※祝日除く）ご予約で問寒別地区内等の送迎を無償運行実施（実験）

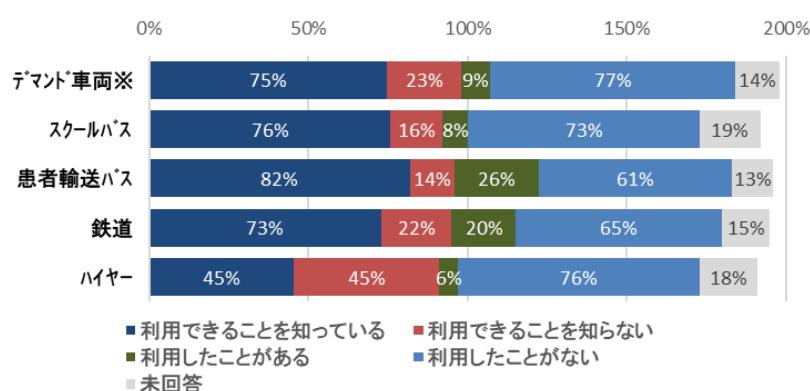


図 VIII-32 移動手段別の利用状況

5)日常生活について

- 日々の暮らしの機能で、「現在」と「将来（5～10年後）」で必要とする程度を把握しました。なお、通勤者、一時滞在者の方は、問答別地区に住む場合を想定して回答してもらいました。

①「現在」必要な機能（図VIII-33）

- 「現在」必要な機能として、「必要」と「やや必要」の加算値が50%を超える機能の高い順に、①「ガソリンスタンド」85%、②「金融機関」84%、③「お店」83%、④「公共機関」82%、⑤「シェアハウス」65%、⑥「医療機関」65%、⑦「無人駅」64%、⑧「安否確認」63%です。
- これらの中で、現在、問答別地区にないものは「シェアハウス」で、新たなニーズと考えられます。

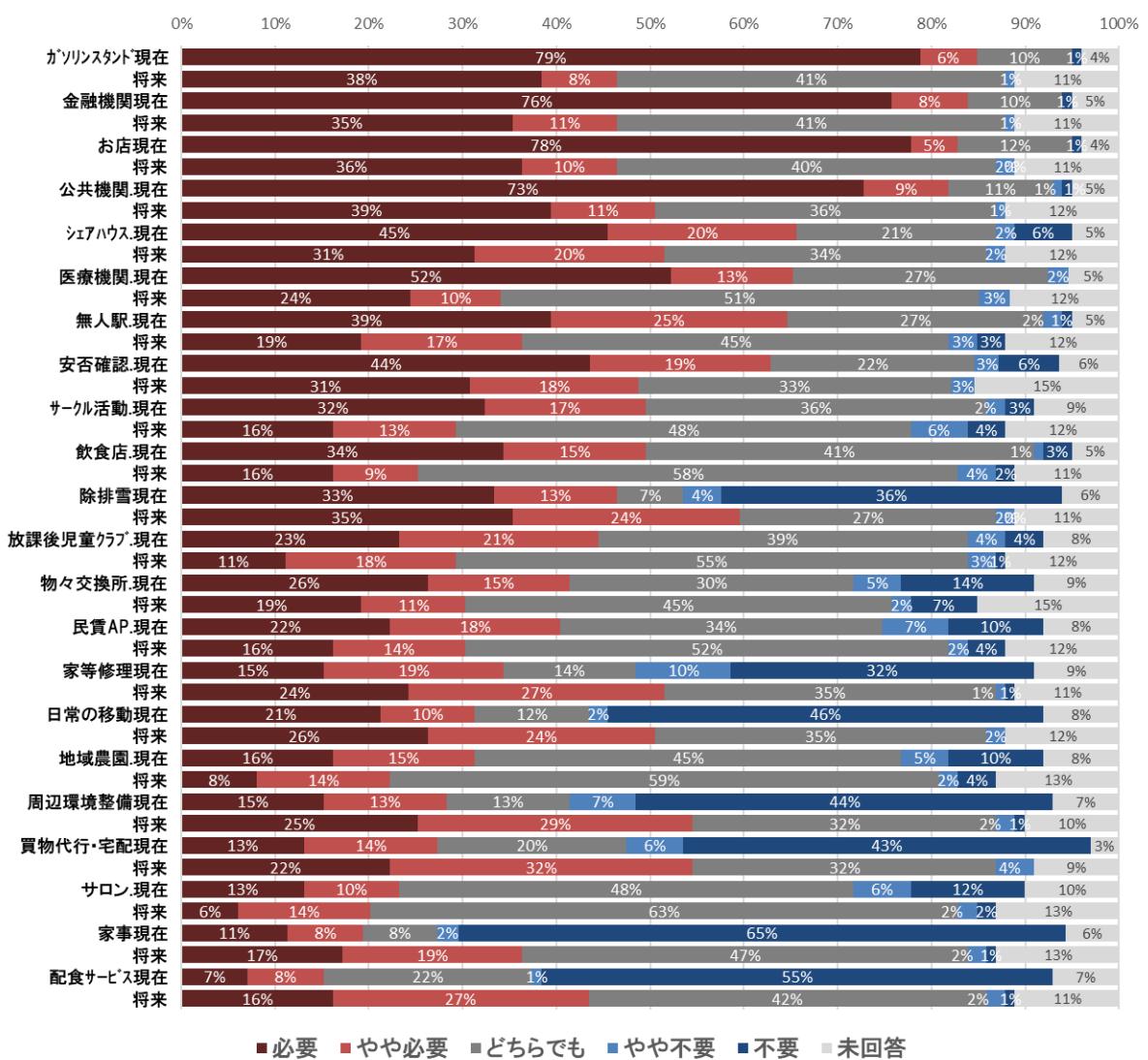


図 VIII-33 日常生活の機能の必要性(現在の「必要」と「やや必要」の加算値の大きい順)

②「将来（5～10年後）」必要な機能（図VIII-34）

- 「将来（5～10年後）」必要な機能として、「必要」と「やや必要」の加算値が50%を超える機能の高い順に、①「除排雪」59%、②「買物代行・宅配」54%、③「周辺環境整備」54%、④「家等修理」51%、⑤「シェアハウス」51%、⑥「日常の移動」50%です。

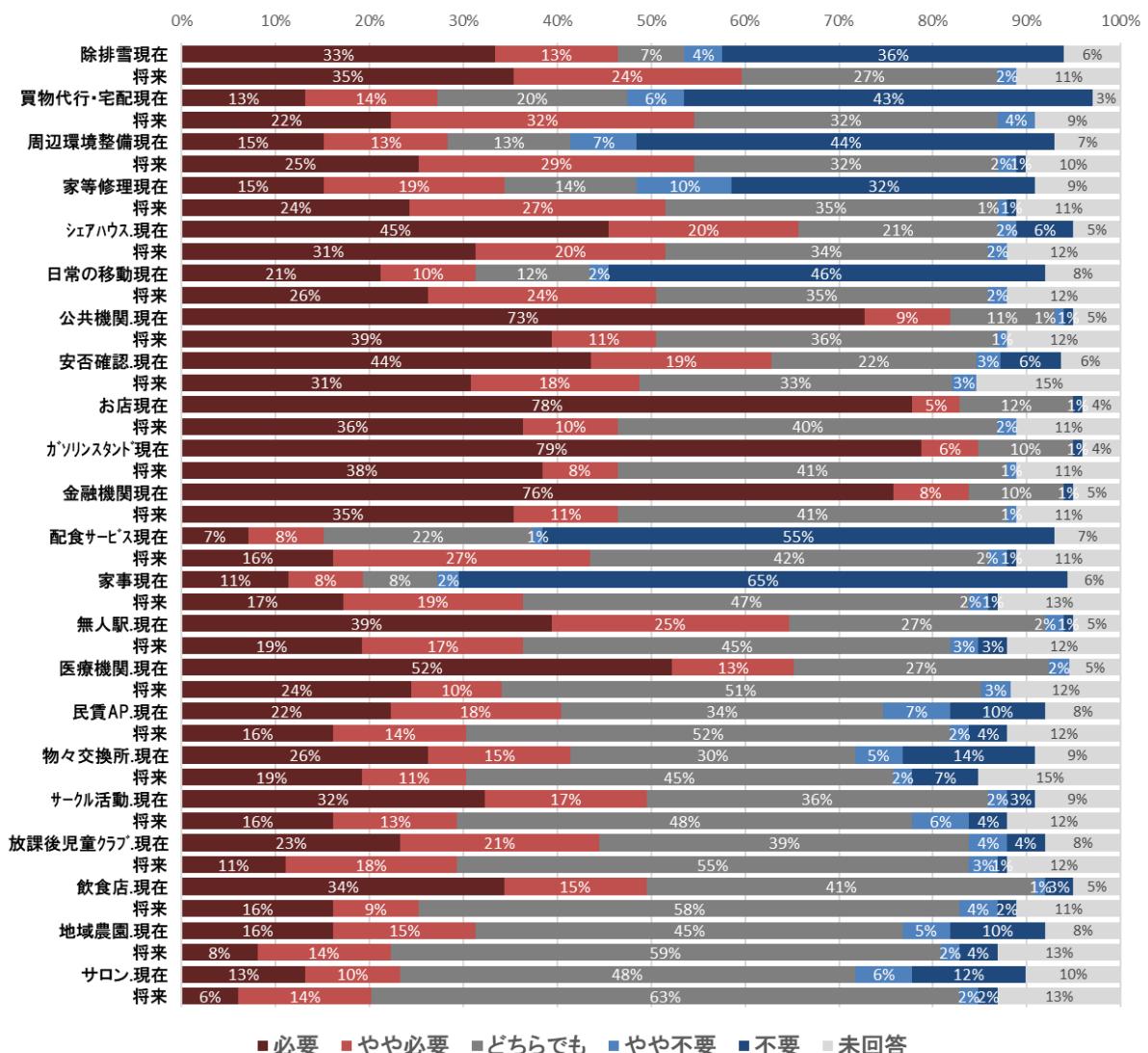


図 VIII-34 日常生活の機能の必要性(将来の「必要」と「やや必要」の加算値の大きい順)

③ 「現在」と「将来（5～10年後）」の必要な機能の比較（図VIII-35）

- 日々の暮らしの機能の必要性を「必要」5点、「やや必要」4点、「どちらでもない」3点、「やや不要」2点、「不要」1点として、点数化し、各機能の点数の「将来」 - 「現在」の点数の高い順に並べました。
- 「将来」 - 「現在」の値が「+」の機能は、現在より将来のニーズが大きいもので、点数の高い順に①「家事（支援）」1.6、「配食サービス」1.6、③「周辺環境整備」1.4、④「買物代行・宅配」1.3、「日常の移動」1.3など、活動やサービスに関することが多いです。
- 逆に「将来」 - 「現在」の値が「-」の機能は、将来より現在のニーズが大きいもので、低い順では①「金融機関」-0.8、②「お店」-0.7、「ガソリンスタンド」-0.7、④「医療機関」-0.6、「公共機関」-0.6など、公的な施設、商業施設が多いです。

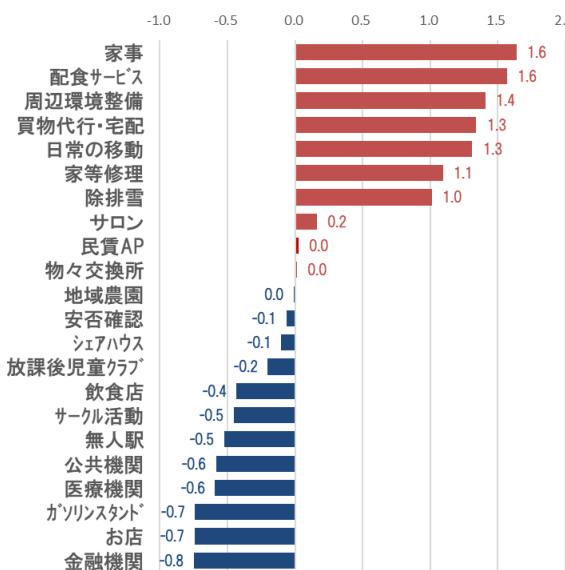


図 VIII-35 日常生活の機能を点数化した必要度の「将来」-「現在」の値

(3)住民アンケートで明らかとなった現状・課題

1)自家用車がない人の移動の利便性の確保

- ・現状では自家用車で移動する人が多く、生活利便性を確保するため、運転免許をできるだけ返納しない状況が見受けられます。
- ・高齢者の自動車事故が社会問題化する中で、徒步生活者であっても問寒別地区に住み続けるためには地域公共交通の充実が必要となります。
- ・ただし、当面、地域公共交通の利用ニーズは小さいですが、生活上不可欠なものであり、小さいニーズに対応できる地域公共交通システムが求められます。

2)日常生活で必要な機能の確保

- ・現在の必要性では、商業、金融、公的施設の維持が高い割合を占めますが、人口減少が進行すると、民間事業として成立しない状況が起こる可能性が高く、そのような場合、他地域では、「移動の足」の充実で補うか、食料品店などを地域のNPO法人等で経営するなどで対応する例があります。
- ・将来の必要性では、除排雪や買物支援などの無形のサービスが高い割合を占めますが、これらのサービス全てを行政が行うことは難しいため、行政以外の主体でこれらのサービスを担う仕組みが必要となります。
- ・「現在」、「将来」ともに必要性が高い機能として「シェアハウス」があげされました。想定する居住者は、地域産業の現役を退いた後も問寒別地区に住み続けたい人や職住分離の生活様式を求める産業後継者、酪農研修生、戸建て住宅の管理が難しくなった人などが想定されます。

3. 住民懇談会「といかん本音トーク」

(1)流れ

住民懇談会「といかん本音トーク」は令和3年度に3回、令和4年度に9回（令和5年3月28日現在）開催しました。その流れを以下に記します（図VIII-36）。

1) 「悩み・考える」の時期（令和3年度第1回～令和4年度第1回）

- ・問寒別地区では、夏祭りや盆踊り、サークル活動などが盛んに行われ、にぎわいのある地域だったが、人口減少や少子高齢化による担い手不足など様々な影響と、コロナ禍により多くの催しが中止され、にぎわいが減少し、地域の沈滞化が顕在化し、現状を不安心視する発言が多い時期でした。
- ・その中でも地域の良さや解決のための方策のアイディアは出されていましたが、「実現できるか」、「誰がやってくれるのか」などの大きな悩みを抱えている時期でした。

2) 「やってみる」の時期（令和4年度第2回～令和4年度第4回）

- ・現状や課題、解決方策などについて、考えられることは概ね意見出しされて、次の展開として、やれることを実際に自分たちでやってみようということに変化した時期でした。
- ・コロナ禍以前にやっていた、手芸や陶芸の出店のような、地域住民が逸品を持ち寄る「といかん・みんなの市」と農業者などがその能力を活かしながら日々のやりがいをもてるようブルーベリーなどの「といかん共同果樹園」のアイディアが出され、実行に向け動き出しました。
- ・その結果、「といかん・みんなの市」が開催されました。
- ・「といかん共同果樹園」については、住民が無料で使用できる土地を提供してくれることになり、果樹の種類や育成方法などの具体的な検討がなされ、雪解け後の植樹に向け、畑を耕す作業を実施しました。さらに、役場のアイディアとして、活用可能な補助金を見つけ、実現に向け準備が進んでいます。
- ・このように、住民が自分事として「実行」し、行政はそれを後押しする流れができ始めました。

3) 「未来を向く」の時期（令和4年度第5回～令和4年度第9回）

- ・「やってみる」の時期を経て、参加者が自由活発で楽しく発言するような会に変化しました。
- ・地域づくりビジョンづくりについても、住民が主体的に関わることの必要性が認識され始め、厳しい現実は見つつも、地域の良さを活かした「といかん」ならではの輝く将来像について、様々な方法で意見を聞き取り検討していきました。
- ・ビジョンの実行すべき具体的な取組である基本計画についても、優先順位を検討するなど、

実現性のある方策が検討されました。

以上のように、住民懇談会の初期は厳しい現実の悩みが表出し、その後、解決方策を検討する中で、やれることを実際にやってみたことにより、地域づくりが他人事・行政頼みから自分事へ変化し、厳しい現実を踏まえつつ、少しずつ地域の未来を考えるようになっていきました。

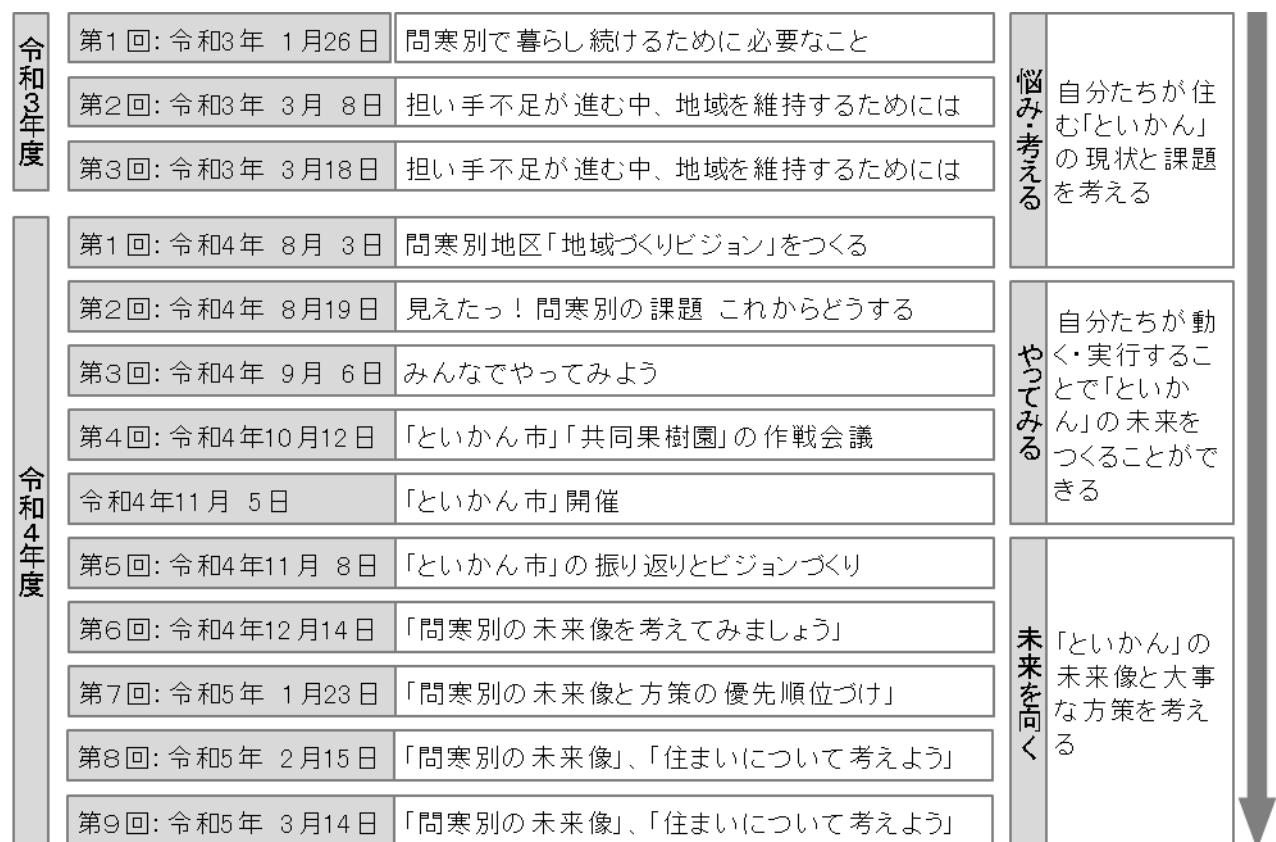


図 VIII-36 住民懇談会「とかん本音トーク」の流れ(令和 5 年 3 月 28 日現在)

(2)検討内容

1)問寒別地区の良いところ

①人のつながりが強い

- ・問寒別地区は、住民のつながりが強く、団結力があります。このため、住民どうしが支え合い・助け合い、お祭りなども盛んに行われていました。

②多様な雇用・産業がある

- ・問寒別地区は300人程度の小規模地域に関わらず、酪農業、農協、TMRセンター、建設業、郵便局、小中学校、障がい者就労継続支援施設、研究機関など多様な雇用の場があり、そこで働く人々がいます。
- ・障がい者就労継続支援施設では、コロナ禍でも地域食堂の運営を続けています。
- ・研究機関には、多くの学生や研究者が行き来しています。
- ・現役大学生などが起業した会社や町外からの移住者によるゲストハウスの運営、道外の若者が酪農の研修をするなど、新しい動きがあり、若者が問寒別地区に入ってきています。

③住民活動が盛ん

- ・夏祭りや盆踊りなどのイベントや手芸や陶芸、カラオケ、パークゴルフ愛好会などのサークル活動が盛んに行われていましたが、コロナ禍の影響で活動は縮小されています。

④子どもを地域で育む意識が高い

- ・豊かな自然を活かし屋外活動で郷土愛を育むワラベンチャー問寒クラブなど問寒別地区ならではの子どもを対象にした活動が盛んです。
- ・自分の子どもが学校を卒業してもPTA会費を負担するなど、地域全体で子どもを育んでいます。

⑤豊かな地域資源がある

- ・豊かな自然が四季を通じて美しい風景を創りだし、山菜や川魚など豊かな自然の恵みが得られます。
- ・問寒別地区には宗谷本線の駅が複数あり、鉄道愛好家などが多く訪れ、それをきっかけに住み始めた人もいます。

2)問寒別地区で困っているところ

①住民活動の維持に不安がある

- ・人口減少、高齢化により、小家族化等により、担い手不足や参加者の減少により住民活動が沈滞化している。また、担い手不足により、特定の人が様々な活動を担うことになり、負担が大きく持続性に不安が生じています。
- ・役場が施設の管理や草刈り、除雪などの一部を住民組織に委託しているが、担い手の高齢化により継続が難しくなっています。

②生活利便性が低下する不安がある

- ・買物については、問寒別地区では小規模な食料日用品店が運営されているが、自家用車で地域外に買物に行けない高齢者などの徒歩生活者にとって、この食料日用品店は暮らしに不可欠なもので、今後の持続的運営が期待されます。

③働き手・住宅が足りない

- ・問寒別地区には、酪農業や建設業などの雇用があるが、働き手が足りない状況です。
- ・問寒別地区には民間賃貸住宅など働く人の住宅が足りないため、幌延地区や近隣市町村から通勤する人がいます。
- ・新たに問寒別地区に来て就職や起業しようとしても住宅の確保が困難な状況です。

④高齢者の住み続け

- ・自分で車を運転できなくなると生活しにくくなり、地域外へ住み替える例があります。
- ・戸建て住宅の高齢者が除雪などの負担が大きくなった際に住み替える高齢者用の住宅が無いため地域外に住み替える例があります。

3)問寒別地区に必要なこと

①酪農業を支える

- ・酪農業に対する興味がある若者が増加しているので、地域一体で体験の場や住まい、生活サポートを行います。
- ・酪農の繁忙期は、食事をつくる時間もないため、配食サービスを行います。

②生活を支える

- ・高齢者などの徒歩生活者の「移動の足」を確保するため気軽で他人に負担をかけないサービスを行います。
- ・「移動の足」を確保するとともに買物や公共機能を維持します。

③多様な住宅の供給

- ・新たな移住者の受け入れや酪農業、建設業の雇用の確保のために、民間賃貸住宅の供給を誘導します。
- ・酪農業の第一線を退いた人や除雪負担の増大などにより戸建て住宅に住むのが困難な高齢者などが、集まって生活を支えながら暮らすシェアハウス「アグリコレクティブハウス」を建設します。

④地域活動の転換

- ・地域活動を義務的に行うのではなく、地域の中で自分の役割を持ち、生きがいややりがいを感じられるようにします。
- ・役員に活動負担が集中しないように、サービスの担い手と受け手の双方が「ごちゃまぜ」にして、みんなで実行します。

⑤みんなが気軽に集まる場

- ・どんな人も気軽に集まることができる「ごちゃまぜ」の場をつくります。
- ・そこに行けば、誰か知り合いがいて話ができます。

⑥ちょっと仕事の創出

- ・問寒別地区内の多様な雇用ニーズと多様な働き方のマッチングをします。「プチビジネスハローワーク」をつくります。
- ・働き方としては、子育て中でも午前中だけアルバイトをします。定年後のスキル活用、定職についているが空いている時間に他の「プチビジネス」を担うなどです。
- ・雇用としては一時的に手が足りなくなった時の助っ人的な一時雇用や酪農業や除雪など季節雇用などがあります。

⑦地域資源を生かす

- ・豊かな自然を活かしたキャンプ場や釣り、写真、鉄道など趣味のガイドなど新たな魅力と雇用を生み出します。
- ・地域では多くの山菜が採れるが、家族・親戚や近所で消費されている資源のお裾分けビジネスを検討します。
- ・地域には、手芸、木工、漬物づくり、釣りなどの名人がたくさんいるため、それらを伝承します。

4) できることからやってみる

上記のような話し合いも煮詰まり気味になり始めた際に、考えるだけではなく、実際に何かやってみようということになり、以下のようなアイディアが出され実行されています。

①手芸・工芸・野菜などの直売所「といかん・みんなの市」の開催

【概要】

- ・問寒別地区内の住民やサークルにより作られた手芸・工芸品、野菜などを共同で売ることのできる場所を設置します。当面は試験的に不定期開催とします。

[目指すもの]

- ・「ごちゃまぜ」の共同作業の場づくり
 - ・活動発表の場、お互いの活動を評価しあう場づくり

[コンセプト]

- ・ものすごく簡単にやる！楽しくやる！
(リーダー不足は、リーダーへの負担が大きいことが要因にあるため、全ての負担がかかるようなリーダーや役は置かず、あくまで自主的な活動とし、参加者各自の創意工夫を尊重します。また、極力お金を掛けないようにします。)

[販売するもの]

- ・趣味のサークルなどで行っている手芸や陶芸作品、木工品
 - ・酪農家や趣味で菜園をしている人の新鮮で美味しい野菜
 - ・使わなくなった子どもの服などを持ち寄り販売

[場所]

- ・問寒別市街地には空き店舗があるため、それらの活用を視野に入れつつ、まずは、空き店舗で起業した「memo'tock（メモトック）」の1階土間で開催

[開催日時]

- ・令和4年11月10時から15時

【周知】

- ・「といかんしんぶん」のチラシを問寒別地区の各戸に配布した他、幌延地区でも配布（図VIII-37）
 - ・各戸設置の告知端末機で放送

「準備」

- ・準備は事前にみんなで清掃等をする、販売の準備は負担が少ないよう当日の1時間前に行う



図 VIII-37 といかん新聞の発行

[当日の様子]

・準備



会場外観



設営



看板設置

・販売状況



手芸品の販売



野菜などの販売



子ども服、陶器の販売



木工品の販売



屋外での野菜の販売



キッチンカー

[感想・評価]

- ・思った以上に多くの人が来て、にぎわいをつくることができた
- ・「とかん・みんなの市」は地域の人が集まる場になることを確認できた
- ・手芸販売では、担い手同士で作品等の話ができる、今後の作品作りに役立てた
- ・お客様が手芸や陶芸などをつくる仲間になるきっかけとなりそうだ
- ・子どもがお金をして買う体験ができたことはいい経験となった
- ・リーダーや役を決めなくても、みんなが協力してうまくやれた
- ・当日の作品の持ち込みなど、気軽にできたのが良い
- ・手芸サークルでチラシ作りを自主的にやる人が出てきたのがよかったです

[課題]

- ・展示テーブルや椅子などは役場で用意したが、これらも自分たちが持ち込めるようした方が良い
- ・野菜については季節ごとの作物リストをみんなで作って開催時期を検討する
- ・今回はメモトックの1階土間を利用させてもらったが、新たな場所探しも必要
- ・足元が寒いなど、細かな反省点を次回に活かす
- ・PR方法は放送など工夫の余地がある

② 「といかん共同果樹園」の実現に向けた取組

[概要]

- ・地域住民の参画・協業により果樹園経営を行う

[目指すもの]

- ・農業者間や、他産業との連携、さらには地域住民との連携を強めていくためのきっかけ作り
- ・観光資源化、しっかり儲けることの実践

[コンセプト]

- ・楽しくやる！
- ・地域の資源（ひと、かね、機材、環境等）を結集する！

[場所]

- ・現在、酪農家が牧草地として使用しているJR線路沿いの畠（80m×40mほど）

[スケジュール]

- ・令和4年　・雪が降る前：畠起こし
- ・冬の間　　：資金の確保、苗の確保
- ・令和5年　・雪解け　　：害獣対策、植樹活動

[柵刈、枝打ち、畠起こし]

- ・実施日時は令和4年11月10日 9:30～15:30
- ・参加者は地域の酪農家、住民、役場職員
- ・トラクターや刈払機、チェーンソーなどは地域住民が持ち寄った

[当日の様子]



列車眺望のため柵刈



畠起こし



実施後風景

[今後の展開]

- ・苗や害獣対策などの経費について、国の補助金の活用を検討（多面的機能支援交付金事業）
- ・令和5年春に、再度畠起こし、害獣対策、植樹を実施予定

(3)問寒別地区の将来像の検討

1)将来像の検討の経緯

将来像について、次の流れで検討しました。

A.住民懇談会において問寒別地区の将来像のキーワードを出し合いました（表VIII-18）。

B.そのキーワードから事務局が将来像のフレーズを作成しました（表VIII-19）。

C.住民や問寒別地区への通勤者などを対象にしたアンケート調査を実施し、Bの中から「いいね」を選んでもらいました（表VIII-20）。

D.住民懇談会メンバーから将来像の追加提案を受けました（表VIII-21）。

E.住民懇談会（R5.2.14）でアンケート調査結果と追加提案について検討しました（表VIII-22）。

F.A～Eにより事務局で3案に絞り、審議会に諮りました（表VIII-23）。

問寒別地区の住み心地の良さを表現	問寒別地区ならではのことや考え方を表現	問寒別地区の未来に向けた気持ちを表現
<ul style="list-style-type: none"> ・人がいい ・人柄がいい ・住み心地がいい ・どうぞご自由に感 でも冷たくない ・ほっとけない ・本音で話せる ・協調性 ・小さいから距離が近い ・小さいから助け合える ・小さいから お互いの事を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱みを強みに ・楽しければなんでもできる ・といかんの人たちだからこそ ・オンリーワンを ・誰か任せにしない ・結束力 ・小さいからお互いの事を知る ・出会い 学び(の場) ・牛が好き ・研究林 ミズナラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる ・つなげる ・つくる ・あしたへ ・未来へ ・いいこと見つけよう ・それでも明日は来る

表 VIII-16 将来像のキーワード

- ① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
- ②といかんならではの価値を未来のこどもにつなぐ
- ③ずっと つたわる ひと(人)・の(農)・営み そっと つながる ひとの温もり もっと つなげる わたしの「といかん」
- ④ひとも地域も未来にも ま～るく はずむ あったか ごちゃまぜ「といかん」
- ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
- ⑥つながる 営み・ひとのわ はぐくみ あしたへ「といかんべつ」
- ⑦みんなが知り合い だから ほっとけない ほっとかない(ホッといかん)
- ⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ
- ⑨オンリーワンなら といかん
- ⑩ひと(人)・の(農)・営み はぐくみ つなげる 明日の「といかん」
- ⑪つながる想い、はぐくみ つなげる 未来の「といかん」
- ⑫わたしのまち だから ほっとかん ほっといかん わたしたち だから あたたか ほっといかん

表 VIII-17 事務局等による将来像のフレーズ

① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現	20
③ずっとつたわるひと(人)・の(農)・営み そつとつながる ひとの温もり もつとつなげるわたしの「といかん」	15
⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ	13
⑦みんなが知り合い だから ほつとけない ほつとかない(ホツといかん)	12
⑪つながる想い、はぐくみ つなげる 未来の「といかん」	11
⑥つながる 営み・ひとのわ はぐくみ あしたへ「といかんべつ」	10
②といかんならではの価値を未来のこどもにつなぐ	8
⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ	8
⑩ひと(人)・の(農)・営み はぐくみ つなげる 明日の「といかん」	7
④ひとも地域も未来にも ま～るくはずむ あつたか ごちやまぜ「といかん」	6
⑨オンリーワンなら といかん	3
⑫わたしのまち だから ほつとけない ほつといかん わたしたち だから あたたか ほつといかん	3

表 VIII-18 アンケート調査結果

追①みんなの笑顔、みんなの安心、みんなでつくる問寒別！
 追②老いも若きもみんなが頼り！一緒に考えよう問寒別の明日！
 追③めざすは人と暮らしのテーマパーク
 追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別
 追⑤楽しもう！関わろう！暮らそう！
 追⑥「できない！」と言うの前に「何ができる？」か考える
 (Think what I can do before I say I can't.)
 追⑦みんなは問寒別のために！問寒別はみんなのために！

表 VIII-19 住民懇談会メンバーから将来像の追加提案

いいなあと思うフレーズ

- ① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
 - ・アンケートの結果を尊重して、これをメインにするべき
 - ・アンケートの結果を用いて決めるのが、より問寒別全体を反映しているのでは
 - ・代表になって本音トークに参加しているのではないので、アンケートの結果を尊重してそれに立って進めるべき
 - ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
 - ・まさに問寒別の良いところをまとめている感じ
 - ・人がよい、自然がよいなどはどの住民も賛同できる
 - ⑧住み心地 いいから 出会える 学べる といかんべつ
 - ・いろんな価値観を認めつつ、それぞれの価値観を尊重できる。という点でこれがよい
 - ⑨オンリーワンなら といかん
 - ・オンリーワンに誇りを持つ
- 追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別
- ・田舎だからあるものしかないところに共感。そこに暮らしをいれたらいいのでは。田舎だからこそ暮らしを楽しむ。つながりを大事にする。というところを大事にしていきたい
 - ・工夫と協働が問寒別の人の暮らしを表して感じがする
- その他
- ・つながる、はぐくむなどの表現を入れたい
 - ・つなげる、つながる、育む、ともにやっていく。がよい
 - ・将来像なので、わざわざ「といかん」、「未来」などは入れなくてもいいのでは
 - ・「テーマパーク」など明るい部分があり、解釈に幅があるものがいいのでは
 - ・軽くでも参加できるような参加しやすいようなスローガンがよい
 - ・子どもたちに伝えていけるようなスローガンだったらよい
 - ・問寒別というと市街のイメージなので「といかん」が全地域合わせてしつくりくる
 - ・多様性やこれから可能性にかけて、「空欄」にして、自分ならどのような言葉を入れたいかを自分で決めていく
 - ・案から選んで反対なこともなければ、これがピッタリというのを見つけ出すのは難しい
 - ・本音トークで作ったもので違和感のあるものは実践していく中で都度変化していくべき

表 VIII-20 住民懇談会での意見

(1)アンケート調査結果を重視して、その第1位の案を選択

- ① “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現

(2)アンケート調査結果が第3位で、住民懇談会で2人が賛意を示した案を選択

- ⑤ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ

(3)住民自らの言葉で作成した追加提案から、住民懇談会で2人が賛意を示した案を選択し、さらに、「問寒別」は問寒別市街地のイメージが強いので全体をイメージできる「といかん」に修正

追④田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働の問寒別

→追④修正 田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働のといかん

以上から審議会に提案する将来像案は以下の3案

1. “楽しい”が人をつなげる といかん暮らしの実現
2. ひとがよい 小さいのがよい 自然がよい 住み心地が良い といかんをあしたにつなぐ
3. 田舎だからこそ、有るもの活かそう！工夫と協働のといかん

表 VIII-21 審議会に諮る3案の抽出理由と結果

(4) 基本計画（重点プロジェクト）の優先順位の検討（北総研で実施）

1) 優先順位を検討する方法

・基本計画（重点プロジェクト）の具体的取組例について、TN 法[※]を用いて、3 つの評価軸「重要性」、「すぐに取り組めそう」、「運営が楽しそう」に対して、それぞれに「全く思わない（1 点）」～「普通（3 点）」～「とても思う（5 点）」の 5 段階に評価して住民懇談会メンバーにより点数化し評価しました。ただし、この評価は 9 人によるもので、これで決定するような趣旨ではなく、今後、基本計画の推進にあたって、このような方法を取り入れて議論を活性化するための参考資料とします。

※TN 法：東北農業試験場で開発された「限られた時間、労力ならびに予算の範囲内ができる限り効果的かつ科学的に望ましい地域活性化対策の抽出・評価・選択に関する地域住民の意思決定を支援するシステム」

I. ごちゃまぜプロジェクト

- I-1 いつでもみんなが気軽に集まれるたまり場づくり
- I-2 障がい者や高齢者など地域みんなの活躍の場づくり

II. 多様な住まいと住み続けプロジェクト

- II-1 多様な働き方・住まい方に対応した住宅づくり（リモートワーク、ワーケーション、コワーキングスペースなど）
- II-2 地域生活交通などによる容易に外出できる「移動の足」の確保
- II-3 アグリコレクティブハウス（農村集合住宅：研修生、卒農者、若い後継者家族）

III. 子どもは地域で育むプロジェクト

- III-1 おひさま子育て会・ワラベンチャー問寒クラブなど問寒別独自の子育て活動の持続的展開
- III-2 地域みんなが PTA

IV. 自分ごと地域運営プロジェクト

- IV-1 住民による地域インフラや生活サービスの運営（交通、公営住宅・空き家・賃貸住宅の管理、公共施設の管理、除雪、草刈り、町内会運営代行、イベント運営等）

IV-2 公共的機能の代替

IV-3 地域運営・活動の企画

- IV-4 地域の情報収集と発信（空き家、雇用などを地域内は情報端末、地域外へは SNS など活用）

V. ずっと続く産業プロジェクト

- V-1 人材の融通と仕事・サービスの共同化（共同配食、人材確保・育成など）
- V-2 新たな働き方による労働力の確保（ビジネスハローワーク）
- V-3 土地の活用による「とかん共同果樹園」（ブルーベリーなど）

VI. 小さな多機能複合拠点プロジェクト

- VI-1 既存施設の活用と空き家・空き店舗のリノベーション（リフォーム）による小さな多機能拠点づくり

VI-2 一体的管理によるネットワーク化

VII. “当たり前”に新たな価値を吹き込むプロジェクト

- VII-1 関係人口による良さの発見と地域内外への発信
- VII-2 「とかん・みんなの市」を使った地域の良さの再発見

表 VIII-22 問寒別地区・地域づくりビジョンの基本計画（重点プロジェクト）の具体的取組例

2) 「重要性」、「すぐに取り組めそう」の評価軸での評価結果（図VII-38）

① 「重要性」が高く「すぐに取り組めそう」な項目

- ・ III-1 おひさま子育て会・ワラベンチャー問寒クラブなど問寒別地区独自の子育て活動の持続的展開
- ・ III-2 地域みんながPTA
- ・ V-3 土地の活用による「といかん共同果樹園」（ブルーベリーなど）
- ・ VII-2 「といかん・みんなの市」を使った地域の良さの再発見
- ・ 特にVII-2 「といかん・みんなの市」は評価のばらつきを考えても3点以上となります。

② 「重要性」は認識されているが「すぐに取り組めそう」の賛否が分かれる項目

- ・ I-1 いつでもみんなが気軽に集まれるたまり場づくり
- ・ II-2 地域生活交通などによる容易に外出できる「移動の足」の確保
- ・ IV-4 地域の情報収集と発信
(空き家、雇用などを地域内は情報端末、地域外へはSNSなど活用)
- ・ VI-1 既存施設の活用と空き家・空き店舗のリノベーション（リフォーム）による小さな多機能拠点づくり
- ・ VII-1 関係人口による良さの発見と地域内外への発信

③ 「重要性」は認識されているが「すぐ取り組めそう」ではない項目

- ・ I-2 障がい者や高齢者など地域みんなの活躍の場づくり
- ・ II-1 多様な働き方・住まい方に対応した住宅づくり
(リモートワーク、ワーケーション、コワーキングスペースなど)
- ・ II-3 アグリコレクティブハウス
(農村集合住宅：研修生、卒農者、若い後継者家族)
- ・ IV-1 住民による地域インフラや生活サービスの運営
(交通、公営住宅・空き家・賃貸住宅の管理)
- ・ IV-3 地域運営・活動の企画
- ・ V-1 人材の融通と仕事・サービスの共同化（共同配食、人材確保・育成など）
- ・ V-2 新たな働き方による労働力の確保（ビジネスハローワーク）
- ・ VI-2 一体的管理によるネットワーク化

④ 「重要性」と「すぐに取り組めそう」とともに低評価な項目

- ・ IV-2 公共的機能の代替

3) 「重要性」、「運営が楽しそう」の評価軸での評価結果（図VIII-39）

① 「重要性」が高く「運営が楽しそう」な項目

- ・ III-1 おひさま子育て会・ワラベンチャー問寒クラブなど問寒別地区独自の子育て活動の持続的展開
- ・ V-3 土地の活用による「といかん共同果樹園（ブルーベリーなど）」
- ・ VII-2 「といかん・みんなの市」を使った地域の良さの再発見
- ・ 上記3項目はばらつきを考えても3点以上となります。

② 「重要性」は認識されているが「運営が楽しそう」か賛否の分かれる項目

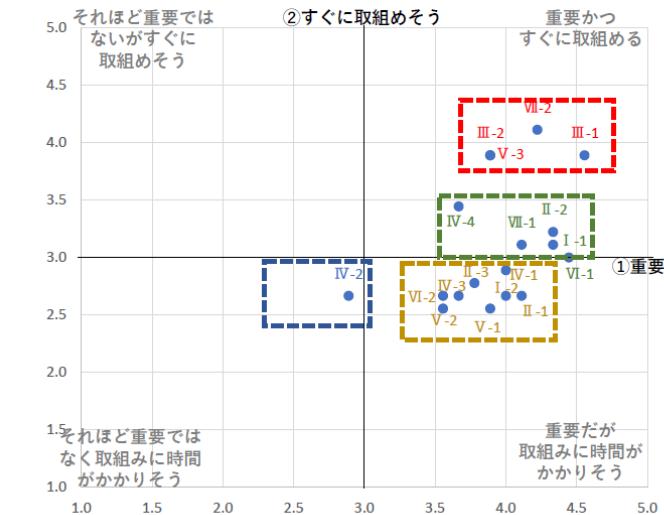
- ・ I-1 いつでもみんなが気軽に集まれるたまり場づくり
- ・ I-2 障がい者や高齢者など地域みんなの活躍の場づくり
- ・ II-1 多様な働き方・住まい方に対応した住宅づくり
(リモートワーク、ワーケーション、コワーキングスペースなど)
- ・ II-2 地域生活交通などによる容易に外出できる「移動の足」の確保
- ・ III-2 地域みんながPTA
- ・ IV-3 地域運営・活動の企画
- ・ IV-4 地域の情報収集と発信
(空き家、雇用などを地域内には情報端末、地域外へはSNSなど活用)
- ・ VI-1 既存施設の活用と空き家・空き店舗のリノベーション（リフォーム）による小さな多機能拠点づくり
- ・ VII-1 関係人口による良さの発見と地域内外への発信

③ 「重要性」は認識されているが「運営が楽しそう」が低評価な項目

- ・ II-3 アグリコレクティブハウス
(農村集合住宅：研修生、卒農者、若い後継者家族)
- ・ IV-1 住民による地域インフラや生活サービスの運営
(交通、公営住宅・空き家・賃貸住宅の管理)
- ・ V-1 人材の融通と仕事・サービスの共同化（共同配食、人材確保・育成など）
- ・ V-2 新たな働き方による労働力の確保（プチビジネスハローワーク）
- ・ VI-2 一体的管理によるネットワーク化

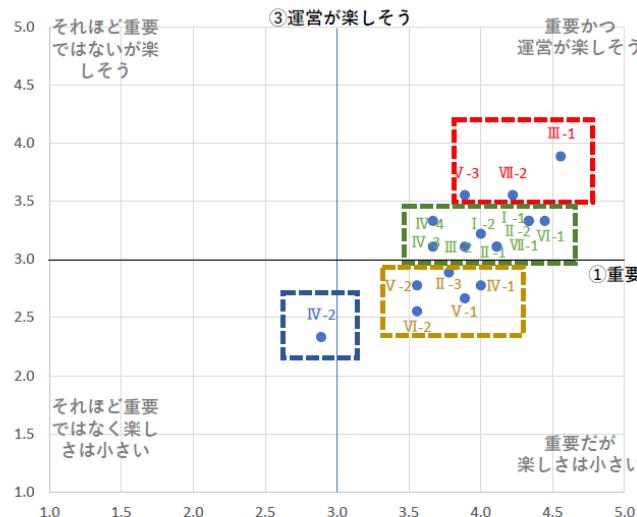
④ 「重要性」と「運営が楽しそう」とともに低評価な項目

- ・ IV-2 公共的機能の代替



- いずれも高評価[III-1, III-2, V-3, VII-2]、特に[VII-2といかん市]はばらつきを考えても3以上の評価。既存の取組みや取組み始めのものが多い。
⇒すぐに取組めるため活動の核として実践・継続
- 重要性が認識されているがすぐ取組めるか贊否の分かれる取組み[I -1, II -2, IV -4, VI -1, VII -1]
⇒すぐに取組める方法の検討や、できる人から取り組むなどにより実施
- 重要性が認識されているが時間がかかりそうと考えられ評価の分かれる取組み[I -2, II -1, II -3, IV -1, IV -3, V -1, V -2, VI -2]
⇒焦らずに時間をかけて検討・実施
- [IV-2役場機能の代替]については低評価
⇒必要性、実施する意義(利便性、収益など)を個別に検討

図 VIII-38 「重要性」、「すぐに取り組めそう」の評価軸での評価結果のまとめ



- [III-1, V-3, VII-2]は重要かつ楽しさが備わる。[III-1おひさま・ワラベンチャー, V-3共同果樹園,]はばらつきを考えても3以上
⇒モチベーションを維持できる活動の核として実践・継続
- 重要性が認識されているが運営が樂しいかどうか贊否の分かれる取組み[I -1, I -2, II -1, II -2, III -2, IV -3, IV -4, VI -1, VII -1]
⇒楽しく運営できる方法を検討して実施
- 重要性が認識されているが楽しだが小さいと想定される取組み[II -3, IV -1, V -1, V -2, VI -2]
⇒楽しみ以外のモチベーションや実施する意義などを確認しつつ実施
- IV-2役場機能の代替については低評価
⇒必要性、実施する意義(利便性、収益など)、モチベーション等を個別に検討

図 VIII-39 「重要性」、「運営が楽しそう」の評価軸での評価結果のまとめ

(5)住民懇談会の意義

1)会が活性化するための工夫

①参加しやすい昼夜の開催

- ・就業者は昼間の出席は難しいことから、各回、昼の部と夜の部の2部開催としました。

②事実の見える化

- ・統計データや投票など、根拠を明確にするための見える化に努めました。

③先進事例の紹介

- ・全国の先進事例を北総研から随時報告しました。

④ざっくばらんに話せるための開催方法

- ・開催形式は教室型や口の字型ではなく、参加人数に応じて丸く囲むような席配置にしました。

2)周知・報告

- ・開催案内をわかりやすく表現したチラシを配布しました。
- ・会議で話された内容をより多くの住民に知ってもらうため「かわら版」や「といかんしんぶん」を発行しました。

3)残された課題

- ・参加者は回を追うごとに固定化される傾向がありましたが、チラシなどを見てさまざまな立場の方が参加されるようになりました。
- ・今後もより多くの住民の方の参加を促すような努力が必要です。

4. 幌延町地域づくりビジョン審議会での検討

(1) 設置概要

1)目的

- ・人口減少、少子高齢化、小家族化が進み、地域や集落の活力が低下する中、幌延町総合計画に掲げる基本目標及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略における取組の着実な推進を図り、いつまでも暮らし続けられる持続的な地域集落づくりを進めるため、幌延町まちづくり町民参加条例（平成21年条例第3号）第19条の規定に基づき、町長の附属機関として幌延町地域づくりビジョン審議会を設置しました。

2)審議委員

- ・地域の25団体23人の審議委員で構成されています。

①開催日時

- ・第1回：令和4年7月12日（火）①13:30～15:00、②19:30～21:00
- ・第2回：令和4年11月28日（月）19:00～21:00
- ・第3回：令和5年2月27日（月）19:00～21:00
- ・第4回：令和5年3月27日（月）19:00～21:00

（2）審議会での意見

1)第1回 「地域の現状と課題について」

①酪農業

- ・離農が進行している
- ・自分で完結する酪農家が多く、共同での出資等が大事になる
- ・コロナ禍以降、酪農業への関心が高まっているので、地域としての受け入れの仕組みが必要になる
- ・農家の暮らし方も変化し、プライバシーを重視する住宅等のニーズがある

②建設業

- ・仕事量はあるが人手の確保が難しく、稚内や猿払からの通勤者もいる
- ・職員は問寒別に住んで欲しいが、住宅が無い

③町内会

- ・人口減少により、既に27の町内会は8に減少している
- ・町内会や連合町内会の役員のなり手がない
- ・特定の人に役割が集中し、負担が大きくなっている

④小中学校

- ・地域の協力があってこそ児童生徒の成長がある
- ・授業で問寒別地区がどうなってほしいかについて話す場をつくっているので、生徒の意見を反映する場が欲しい

⑤おひさま子育て会

- ・0歳から中学生までが集まれる場で、お母さんの悩みを話せる場でもあるが、担い手不足で困っている

⑥老人クラブ

- ・会員数が減少し、新会員が増加しない

⑦北大研究林

- ・研究者は年間3千人日くらいが来ている
- ・かつては北大研究林で地元雇用があったが、減少している

⑧障がい者・高齢福祉

- ・かつて問寒別地区は行政に頼らないでも、福祉機能が全てそろっていた。それを現代版に活かせると都会にはまねできない問寒別地区ならではのものになる

⑨新規企業など新しい動き

- ・秘境駅など若者が集まる場になっているのはチャンス
- ・ゲストハウスに泊まった人がそのまま移住した例もある
- ・問寒別地区には酪農をはじめ、いろいろな仕事があるため、一つではなく、いろいろな仕事を掛け持ちすれば十分な収入になるのでは

2)第2回 「問寒別地区・地域づくりビジョンなどについて」

①これからの役場の役割

- ・住民主体でいろいろなことやることになっているが、役場の役割はどうなっていくのか

②まずやってみることの効果

- ・「といかん・みんなの市」に参加して手芸サークルメンバーが前向きになって、また開催したいと考えだした

③住宅について

- ・名寄市にある道営住宅では1階に高齢者が上階に若者が入居し、若者が高齢者の見守りなどができる仕組みで参考になる

④ビジョンについて

- ・考え方はポイントをつかんでうまくまとまっていると思うが、ビジョンを実行するのが難しい
- ・近年はお金ではなく心の豊かさを求めるようになっている中で、都会にはない自然、生き方、生活のしかたなど、地域資源は豊富なので、当たり前のものを再発見して、発信して、人が集まってくれるような地域になってほしい。
- ・移住、新規就農、人が集まることが大事、そのネタを探して、育んで、発信していくこと
- ・他人事ではなくて、住民が切に考えて掘り下げてビジョンを煮詰めたい
- ・口で言うのは簡単で実行は難しいが担っていくしかない
- ・働く人の定住は住宅不足だけではなく家族の問題もあるので、そういう人の声も拾うべき
- ・地域で必要なことを町内会などでやっている。人が少なくなったけど、なんとか継続できるように一生懸命やっている、どれも大切で必要なこと
- ・参加できない人にも確実に進捗状況を周知して意見を聞く仕組みが必要

⑤地域運営組織について

- ・住民が地域運営を担うにあたっては、雪下ろしや草刈りなど、寄せ集めになった場合の事故の対応や資格の有無が心配。仲良しクラブのように思える。仕事でやるからには責任を持つ必要がある
- ・ビジョンと現実とのギャップを感じる。ミニバレー、ソフトボール、盆踊り、町内会等の活動を継続するために、浅く広く、どの活動も簡単にしているのに、新たな仕組みを作るとなると、またいつものメンバーの仕事をまた増やして、限られた人への負担が集中するのでは。たくさんの人人が少しずつ汗をかく発想が必要
- ・人口が減っていく中で、地域運営組織は移住者が担う方向だと思う。しかし、代々引き継いできた集まりやイベントを守っていきたいという地域の想いは、10年程度住んでみて初めて何となく理解できるものでは。入ってきて1年目の人が、10年目のような気持ちで活動を担うのは難しい
- ・地域運営組織で雇用を生むのは難しいのでは
- ・収入として300万円以上をどうやって稼ぐのか
- ・ビジョンの文章にカタカナが多くて高齢者などは理解しにくい

⑥移住者の受け入れについて

- ・移住の失敗例もよく聞く中で、問寒別地区は移住者を受入れてくれる寛大な人が多い

のが良さなのでは

⑦産業振興の重要性

- ・地域づくりでは、産業振興が重要で、基幹産業である農業や建設業が元気になる方策が一番重要だと思う

⑧小中学校や子どもと地域のかかわりについて

- ・第1回審議会で、ビジョンに子どもも関わることを要望して、子どもワークショップが実現した。子どもたちは地域が好き。自然豊かなこの地域で安心して遊べる環境にあるのは、地域の見守りあってのこと
- ・地域とのつながりが無ければ学校の運営はできない。子どもがいなくなれば学校も無くなり、地域も衰退する。少しでも人が住んでもらえること。人数は少ないけど人のつながりが強い地域だ

⑨老人クラブの町から委託の公園管理について

- ・会員が減っている中、事故のことを考えると安易に仕事を請けるのが良いことなのか疑問に感じている

⑩交流の場について

- ・最近は、問寒別地区がばらばらになっているように感じており、移住者との接点があり無いことから、誰とでも交流できる場が欲しいと思う

3)第3回 「問寒別地区・地域づくりビジョンなどについて」

①事務局からの説明とお願い

事務局から以下の項目について説明し、各委員から意見記入表等で意見提出のお願いをしました。

- ・問寒別地区・地域づくりビジョンの原案について、第2回審議会での意見への対応、新たに修正した本編、概要版について
- ・問寒別地区・地域づくりビジョンの将来像について、住民投票などの過程を経て絞り込んだ3案について
- ・今後の審議会の開催、答申への流れについて

②副委員長からの意見

説明を受けた副委員長から以下の意見がだされた。

- ・素晴らしいビジョンができようとしているが、実行するのが重要
- ・自分たちがやらなければならないことを考えて実行していきたい

※意見記入表で出された意見を今後まとめる

5. 問寒別小中学校子どもワークショップ

(1) 概要

1) 日時

令和4年11月7日（月）

- ・小学校の部：13時10分～13時55分
- ・中学校の部：14時10分～15時00分

2) 参加者

- ・小学校の部：12人
- ・中学校の部：2人

3) 内容

① テーマ

- ・いろんな『好き』を発見しよう！

② 趣旨

- ・問寒別地区で策定を進めている「問寒別地区・地域づくりビジョン」において、夢や希望にあふれた問寒別小中学校の児童生徒の発想を盛り込んだ意見をとりまとめ、「子どもたちから見る問寒別」として掲載する。この過程で児童生徒には、都会とは違った問寒別地区で暮らすことの良さに対する気づきを得てもらうとともに、これからの問寒別地区を考えるきっかけとしてもらいます。

③ 進め方

- ・小学生の部の進め方（表VIII-25）

時間割	内容	備考
導入 (10分)	問寒別を空から見る(Google earth) ・世界地図から問寒別へズーム ・ランドマークをいくつか子どもに挙げてもらう	低学年の子にも俯瞰のイメージをなんとなく持つてもらう
ワーク1 (20分)	「好きな遊び、好きな場所カードを作ろう」 ・低学年と中学年でペア又は小グループ ・好きな遊びや好きな場所をカードに書き込んで、地図上に置いていく(何枚でも)	空欄のカードを複数用意 問寒別の大きな地図をテーブルに広げておく
ワーク2 (10分)	大人が考えた「問寒別の好き」カード →地図上に並べて簡単に説明 大人カードと子どもカードを対象に「いいね！」「はてな？」シールを貼る	大人の「好き」カードは、これまでのワークショップや調査の結果を基に、北総研であらかじめ作成
振り返り (5分)	振り返りシートに感想を記入	

表 VIII-23 小学生の部の進め方

・中学生の部の進め方（表VIII-26）

時間割	内容	備考
導入 (10分)	問寒別を空から見る(Google earth) ・世界地図から問寒別へズーム ・ランドマークをいくつか生徒に挙げてもらう	
ワーク1 (15分)	小学生が作った「好き」カード、大人の「好き」カードについて簡単に紹介 「問寒別の『好き』カード(中学生版)を作ろう」 ・問寒別の好きなところ(場所でも内容でも可)をカードに書いて、地図上に置いていく	最初から小学生カード、大人カードを地図上に並べておく 空欄のカードを複数用意
ワーク2 (10分)	・各自が書いたカードを簡単に説明してもらう ・すべてのカードを対象に「いいね！」「はてな？」シールを貼る	
振り返り (15分)	「未来の問寒別にむけて」 ・進学等で離れたあと、いずれ帰ってくるとしたらどんな問寒別であってほしいか ・そうなるためには今何をしたらいいと思うか →記入用紙にまず書いてもらい、その後、3人で意見を交換	

表 VIII-24 中学生の部の進め方

4)結果

①小学生

[好きなコトモノ]

- ・子どもの独創的な発想：お化け屋敷、森、昆虫、赤い橋、秘密基地
- ・人気のあったコトモノ：学習センター、学校、秘境駅、研究林、自然、プール、秘境牛、ワラベンチャー問寒クラブ、ドウモンド、おひさま子育て会、Qマーク、農村公園、パークゴルフ場
- ・(大人の視点で) 意外な「好き」：農村公園、昆虫
- ・大人「好き」一致：自然(景色)、ワラベンチャー問寒クラブ、おひさま子育て会、盆踊り、魚釣り、親子料理教室、キノコ採り(やったことのあるコトモノ、身近にイメージできるコトモノ)
- ・大人「好き」不一致：野菜づくり、ご近所付き合い、お裾分け、支え合い・助け合い、協力、幌延に負けない、山菜採り(習慣、暮らし系は不一致)

[小学生の感想]

- ・といかんの好きな1番(1個)はいっぱいあるから書ききれない
- ・1番好きなのは選びきれない

②中学生

[問寒別に必要なコトモノ]

- ・魅力、情報発信、人口（移住）、知名度、働く場

[といかんを離れて帰ってきたとき、どんなといかんであってほしいか]

- ・店や人、公共施設が増えていてほしいの意見が多い（買物は稚内が多い）
- ・学校がにぎわってほしい
- ・とりあえずセコマがほしい

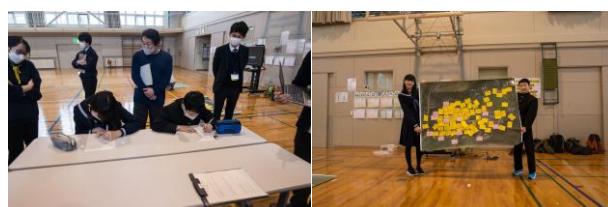
[そのために今からどうしたらしいか]

- ・まずはコンビニから
- ・やるなら一気にコストコみたいな何でもそろう場所を建てる
- ・中途半端に小さい店から始めると足かせになってしまう？
- ・古くなった住宅の更新
- ・といかんのよいとこを伝えていく
- ・知名度を上げる
- ・ここにしかない注目されるものを建てる
- ・行きたくなる施設
- ・教員も楽しそうでいろいろ提案していた

[中学生の感想]

- ・いいところや課題を考えるいいきっかけになった
- ・自分たちではなかなか難しいけど、考えることができたのはよかったです

[ワークショップの様子]



6. 観察研修

(1) 概要

1) 観察1 「N P O 法人上美生」 観察

① 観察先、日付、参加者

- ・芽室町上美生地区「みんなのお店 KAMIBI」その1
日 付: 令和4年10月4日(火)
参加者: 問寒別地区住民: 4人、役場職員: 4人、北総研: 1人 他
- ・芽室町上美生地区「みんなのお店 KAMIBI」その2
日 付: 令和4年11月15日(火)
参加者: 問寒別地区住民: 2人、役場職員: 1人

② 対応者

- ・NPO 法人上美生 理事 上美生ほしそらプラン会議 代表 蘆田 千秋 氏

③ N P O 法人上美生（上美生ほしそらプラン会議）の取組概要

- ・集落の中学校閉校危機に面し住民自らが移住者の受け入れや支援を始め、山村留学で学校を存続
- ・集落のニーズを住民アンケートで収集し、高齢者宅の除雪サービス希望者自宅前に「置きスコップ」を配置し、通りがかりの人が「勝手に」除雪する方式「ほしそら除雪隊」
- ・レンタカーで部活生徒や高齢者送迎の実証実験。地域唯一のスーパー閉店を引き継ぎ NPO 法人店舗経営
- ・「住民みんなでやれることはなんでもやる」の精神。居場所「上美生ふれあい広場ひだまり」、地域交通実証実験を経て有償旅客運送「KAMI 便」運行

④ 観察で得られたこと

○ 地域運営の担い手

NPO など単独組織で地域運営はできない。上美生地区は NPO 法人だけで運営しているわけではなく、上美生地区協議会^{※1}、ほしそらプラン会議^{※2}、NPO 法人上美生^{※3}の3つの団体が連携することで維持活動を行っている。

※1: 上美生地区協議会: 親会で町とやり取りする連合町内会のような組織、フォーラム開催

※2: ほしそらプラン会議: アイディア創出の場、実験機関、事業化は協議会、NPO 法人へ振り分け

※3: NPO 法人上美生: 事業実施機関(店舗、交通、ひだまり、体験住宅等)、地域課題解決団体

○ビジョンの考え方

[上美生将来ビジョン]

- ・「農・風・人・育む・上美生（のーとはぐくむかみびせい）」：星が輝き、新しい風が吹き、営みを受け継ぐ。土地力とくらしの美力が人を育む農力の集落づくり地域ビジョンは、カチツとしたものではなく融通のきくゆるいもので目指す方向だけはしっかり決める、北極星のようなものでよい

○取組の進め方

[常にらしさを念頭に置く]

- ・上美生らしさとは何なのかを絶えず考えている

[徐々にできることをやっていく]

- ・地域でやらなければならないことはたくさんあるが、重要性ややりやすさなどから優先順位を考慮して、できるところからやる

[人の輪を広げる]

- ・反対する人もただの中傷ではなく地域を思って愛して反対する人とは、とことん話して人の輪を広げていく（単なる中傷は力を注いでも無意味）
- ・応援してくれる人に想いが届けばいざれそれは広がっていく

[役場との関係]

- ・役場が旗振りをするとどうしても地域の実情や声と離れてしまう可能性が懸念された
- ・役場は後方支援で、補助金の紹介や申請手続きの手伝いなどしてくれる

○小さいことのメリット

[小規模校のメリット]

- ・様々な役割を子どもたちが担える。積極的に動くような子どもになるので小規模校の方が良いのでは

○NPO 法人経営状況

- ・4年目で初めて黒字となつたが、コロナでのイベント縮小により当初の寄付金積立金が減少するなど厳しい状況（人件費0ならいける）
- ・無償のボランティアで成り立っている部分もあるが、いずれ持続可能とするためきちんと儲けていきたい
- ・4お店はパート職員で回せるので、NPOの職員を様々な事業をやることに割いていきたい

2) 観察 2 「市民活動スタッフ養成講座」受講

① 日付、参加者

日 付：令和 4 年 11 月 17 日（木）

参加者：問寒別地区住民：4 人、役場職員：1 人

② 講座概要

「非営利組織のガバナンス拡充を進めるために

～ 146 団体アンケートから考える ～」

- ・ガバナンスは組織全体の信頼性のため必要不可欠
- ・役員数の下限 3 人：多数決できる最小限の人員。1 人では独裁となる、10 人以上など多いと形骸化する、少ないと後継者が育たない
- ・任期制限が無いと後継者が育ちにくく何かあったときに回らなくなる

「北海道内の地域の持続可能性を高めるために

～ 小規模多機能自治の意義とポイント ～」

- ・人々の暮らし方が変わったのに地域の仕組みをアップデートできていない
- ・小家族化が深刻で世帯の負担増
- ・20～30 代土日休みのサービス業は 3 割（土日にイベント、行事しても参加できない）
- ・地域行事は昭和の家族が大人数だったときの地域のコミュニケーション手段がイベントでそのままやり続けられない
- ・元気な地域とは人数ではなく姿勢で住み続ける地域の未来のために、本当に大切なことを実現できるよう全力を尽くしているか
- ・出し惜しみしない、できないフリしない、あきらめない、「誰かがどうにかしてくれる」と甘えない
- ・課題先進地だからこそ課題解決先進地になれる
- ・チャレンジにやさしく、頭も心も柔らかく
- ・2 つの高齢化：人間とインフラ（ハコモノ）
- ・協働から総働へ
 - ・協働：行政と地域（NPO 等）が連携
 - ・総働：目的別の複数の団体から 1 つの組織で多様な動きができる協働、団体支援から自治の確立
- ・行事と会議と組織の棚卸し

- ・行事を半減して、福祉や防災 + 経済
- ・イベントからサービスへ、「役」から「経営」へ
- ・小規模多機能自治
- ・行政機能の集約化
- ・まちづくりは誰のため、何のため？ ⇒ 命と暮らしを守るため
子どもたちの世代が誇りを持って暮らし働くため、災害時等の安心のため

③視察で得られたこと

- ・自治会のこれからへの使命
自治会が命と暮らしを守るということ
- ・成功のポイント
成功例のような地域はあるが、首長がまちを残したい気持ち、次の未来を考える政策、次代を担う若者を優先する取組などを実践している

IX. 終わりに 「未来につなぐ子どもたちの想い」

「問寒別地区・地域づくりビジョン」は、「といかん」の未来をつくる道標です。

子どもたちが大きくなって、「といかんに住みたいね」、「子どもはといかんで育てたいね」と言ってもらえる地域にしていきます。



図 IX-1 子どもたちの好きなコトモノ（「問寒別小中学校子どもワークショップ」より）

